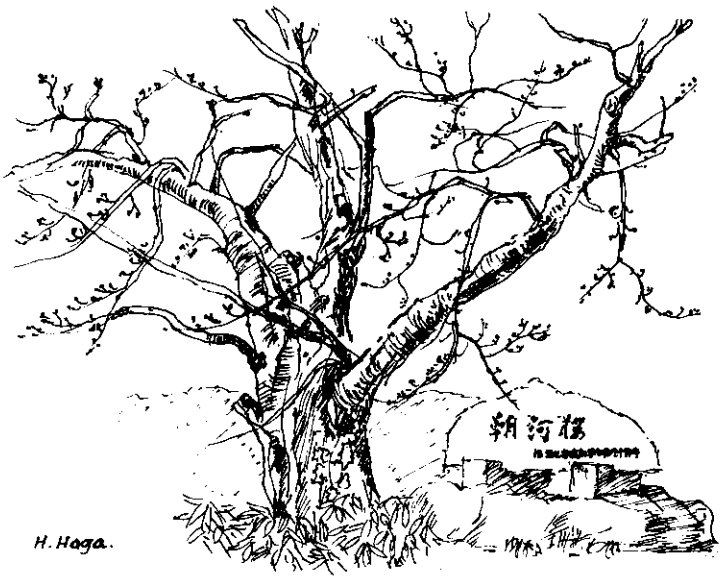
■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

# 東京桑野会会報

●1991年4月1日発行 ●発行・編集人 澤田　悌●発行所　東京桑野会事務局　〒160 東京都新宿区新宿1-3-8YKB新宿御苑804




安高教諭 芳賀仁美 画

美術部員1年 小檜山茂生 画

## ご挨拶

東京桑野会会長　澤田　悌

①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること

②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること

③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

平成3年を迎え、来る4月16日㈫には東京桑野会の年次総会を開催することになりますが、その予告も兼ねて東京桑野会会報第13号を皆さんにお届けいたします。又投稿下さった皆さんには厚くお礼申し上げます。

総会では、例年の通り事業報告、予算決算の承認等の議事の外、本年は2年毎の役員改選の年に当りますので、新年度に臨む役員の新陣容をお決め願う予定であります。そして引続き盛大な親睦会に移り、母校を偲び大いに語り大いに飲んで歓を尽そうという次第であります。

過ぐる1年間を回顧いたしますと、日本経済は行き過ぎたバブル景気は鎮静しましたが尚好景気を持続しております。ただ世界情勢はまさに激動の1年というべく、70年以上の間世界を脅やかしたソ連の共産主義体制の崩壊とその影響、更に湾岸戦争の勃発と深刻なその後の経過等重大な事態が続いております。こうした状況の中、わが東京桑野会の方々が首都圏の各方面において活躍されていることは誠に心強い限りであります。又昨年会報第12号でお知らせした通り、安積の偉大な先輩である故朝河貫一博士の貴重な書簡集が目出度く刊行されたことは誠に意義深いものがあり、喜ばしい次第であります。

それでは来る総会には多くの方々がお元気にご出席下さいますことを希いご挨拶といたします。

東京桑野会の一年のメインイベントである、定期総会と会員の懇親会を開催いたします。

会報の一面にもありますように、同窓生の親睦を図り、仲良く楽しい会員の頼りになるような会にするためにも、できるだけ多くの方々が参加されますようご案内申し上げます。

●期　日　1991年（平成３年）４月16日㈫
●時　間　午後５時　―― 受付開始
　　午後６時　―― 総会
　　午後６時30分 ― 懇親会
●議　題　１．会務報告の件
　　２．予算決算の件
　　３．役員改選の件
　　４．その他
●場　所　目白　椿山荘
　　東京都文京区関口２－10－８（Tel 03-3943-1111）
　　JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
●会　費　懇親会費　　8,000円（学生 3,000円）
　　1991年度会費　2,000円

なお、当日出席出来ない方は、同封の振込用紙で年度会費2,000 円のお振込みをお願いします。

◇準備の都合もありますので、出欠の返事を同封の葉書で３月末日までにご返送下さいますよう申し上げます。
◇また、連絡もれもあるかと思われますので、恩師やお知り合いの方もお誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いいたします。
◇昨年度は、1990年４月13日に開催され、200名を越える参加者がありました。年毎に盛会になりつつあります。幹事の方々も新しく各期毎に増えました。前回を上回る参加を期待します。
**◇年度会費2,000円は、会の運営のために是非必要なもので、ご欠席の方は同封の振込用紙でお振込み願います。**

●古川　清氏（63期）は１年有余に亘る北海道担当大使の大任を果たされてこの度、駐ルーマニア大使に任命されました。（1990年８月10日）。

かつての波高きホルムズ海峡のオマーンに引き続き、「激動の東欧」世界中から注目のルーマニアです。

以前に担当されていた国とも聞いております。古川大使のますますのご活躍をお祈りします。

●真船　静枝氏（38期故真船清次氏夫人）からは、故人の東京桑野会への思い出、会員皆様から受けられた友情へのお礼とのことで会へご寄付を頂きました。

お礼を申し上げますとともに、真船夫人のご健勝をお祈りします。

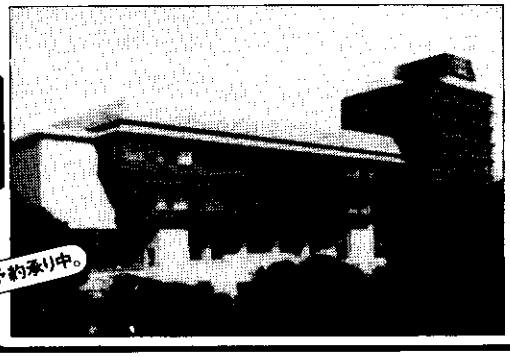
●椎根　和氏（74期）Hanako編集長。

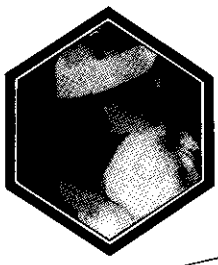
「あの西麻布に住む福島県人」と週刊朝日に紹介された名物編集者自らを紹介する一文を寄せて頂きました。

**週刊朝日('90・6・29)記事の写真**

週刊朝日
人間
'90
地価高騰がギャルの金銭感覚を変えたと説くHanako編集長
椎根 和


華やかな「宴」のとき。





只今、ご婚礼・ご宴会ご予約承り中。

■大小18のご披露宴会場。
■800名様までの日本料理・フランス料理着席ご披露宴。
■庭園での記念写真も随時お撮りいただけます。
■チャペルでの挙式もできます。
■最新機能の音響・照明設備。

渉外担当支配人
竹花則栄（55期卒）

CHINZAN SO
椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
☎03(3943)1111
藤田観光

# 母校便り

（安積高校新聞第136号、137号より）

●平成２年度教職員人事異動

吉田弥校長が退職され安原滋氏が新校長として着任。全体として退職３名、転任11名、着任16名という近年にない大規模な異動であった。

●平成２年度入学式

平成２年４月９日に新体育館で挙行され、522名が新安積健児として迎え入れられた。例年通り、彼らは諸先輩の“水爆攻撃”を受けた。

●生徒会予算は？

17,775,000円！これらが体育系16団体、文化系14団体に配分される他、遠征費、安積編集費等に使用される。さて、多いか？少ないか？

●高体連結果

ソフト同好会東北大会優勝。甲斐あって、平成２年12月10日付けで部に昇格。

剣道部県大会団体戦優勝。二瓶将行君個人戦２位。

●甲子園

残念ながら本年も甲子園への道は遠かった。会員各位のさらなる応援を切望します。

●佐川演司先生、東レ理科教育賞を受賞。テーマは「マイコンを利用した気体の法則および蒸気圧曲線の学習」。全国で６名の受賞。東北では唯一の受賞だそうです。

# 「朝河貫一書簡集」発行について

前12号でお知らせしました、朝河貫一博士の書簡集が昨年の10月に早稲田大学出版部から刊行されました。

この書簡集の刊行までには故阿部善雄氏はじめ実に多くの安積出身者のお骨折りによることは、同書簡集の「あとがき」にも述べられている通りです。

12月２日には早稲田大学の大隈会館において、刊行会の名誉会長でもある佐藤知事も出席されて刊行記念の祝賀会が開かれました。

予約出版の頒布については会員各位のご協力を頂きありがとうございました。今後のお申込も受け付けております。この機会にご購入をお薦め致します。

**「『朝河貫一書簡集』あとがき」より**

編集が最終段階に入った1990年３月、「朝河貫一書簡集刊行会」が結成された。永井道雄氏を会長に、朝河博士の出身地福島県の知事佐藤栄佐久氏ならびに出身校早稲田大学の総長西原春夫氏を名誉会長として、国際文化会館において学会、安積中学（現安積高校）関係者、編集委員等80名から成る刊行会発起人の総会が持たれ、刊行会結成となった。このような広汎な支持者を集めた刊行会の発足にまで漕ぎつけた背景には、安積中学・早稲田大学出身で故阿部委員長とも同窓の弁護士柳沼八郎氏の並々ならぬ尽力があったのである。柳沼氏は東奔西走の合間を縫って、安積高校出身の横浜市立大学教授の矢吹晋氏とともに、福島まで足をのばし、県知事はじめ関係者を紹介すると同時に、早稲田大学からの支援をとりつけ、東京桑野会（東京周辺の安積高校出身者の同窓会）にも呼びかけ、刊行への一般的な支持と財政的な支援とを実現したのであった。

朝河貫一書簡編集委員会
朝河貫一書簡集刊行会

太平洋戦争に傾く母国に警鐘

在米の歴史家・故朝河貫一 書簡集を刊行

日独の運命的確に読む

開戦回避にも懸命の努力

**刊行紹介の新聞の写真**
**（朝日新聞1990年12月１日夕刊）▶**

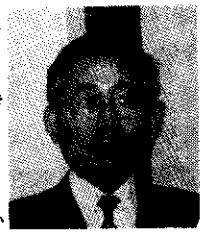

株式会社 渡辺電務社
電気設備設計施工

本　　社　東京都江東区三好１丁目１番２号
電話東京(3641)0136番（代表）〒135
千葉営業所　千葉県千葉市都町２丁目５番１号
電話千葉(0472)(31)9287番 〒280

取締役社長　渡辺豊定(58期)
(旧姓沢村)
取締役副社長　土屋七郎(57期)

# ごあいさつ

学校長　安原　滋



校門を入ると、正面の木立ちの中に、旧本館が昔のまま静かな佇まいをみせています。

同窓の方々が中心となった修復保存の願いが実を結び、国指定の重要文化財安積歴史博物館として再生した今も、講堂は、学年単位の生徒集会やPTA集会等に積極的に活用しています。この本館の前に立つと、同窓の方々が、ひたむきに生き、学び、語り合った安積での生活を誇りとし、今なお、心のよりどころとしていることが、静かに伝わって来ます。

四月の入学式で、新入生諸君に、志を高く掲げひたむきに生きることを要望した。安積に学ぶ生徒は、次代の国家、社会を担う責務と関わって存在するものであり、この安積での生活は、今後、君達が生きるこうした人生の基盤づくりを行うものであることを説いた。また、価値あるものを追求する時、多少の困難や面倒は常につきまとうものであるが、君達にとって許されないのは、自らの怠慢をもって、困難を不可能という文字に置き換えることであることも付け加えた。

教師の職にある限り老いることは許されません。常に、若者に勝る清新な気力を持ち、理想を追求する者が、教師として迎え入れられます。未熟であり非力であっても、人生を精一杯生き、精進を重ねる者が、若者と感動を共有できます。そして、日々のこうした感動の連鎖体験を通して、若者は確かな大人へ着実な歩みを進めていくことになります。

近年の眼を瞠るばかりの科学技術の発達と経済の高度成長は、教育、文化、福祉等生活のあらゆる面で、未だかつて味わったことのない豊かさを我々に提供しております。

しかしながら、物質的経済的な豊かさの享受は、その代償として、人間の持つ様々な資質の退行現象をもたらしているという指摘があります。かつて、逆境の中で、自然に育くまれた自立心、忍耐力、責任感、連帯感等が薄れ、金銭的物質的な価値観に基づく安易な生き方を求める若者に対する懸念の声も聞かれます。

しかし、本校にとって、そうした懸念、指摘は当たりません。

安積に学ぶ者は、将来、組織のリーダーとして生きることを余儀なくされます。人は理屈では動きません。人を動かすのは感情です。どんな場面においても、誠実で温かい人であることが、また、如何なる時においても、学問を愛し、美を求め続ける人であることが、信頼を集め、連帯意識を生み、組織を動かすことにつながります。

今後若者が生きるのであろうこうした人生の基盤づくりが、百年を超える安積の教育が求め続けたものであり、その中で、紫の旗の下に集う堅い絆と、生涯にわたる心の支えが得られたものと考えます。

折にふれ、こんな考えに基づいて、生徒に話しております。

東京桑野会の皆様の、物心両面にわたる母校への御支援に対し、心から感謝申し上げます。

# 安積の出会い

並木　謙（63期）

戦後荒廃のなかで、四季に恵まれた安積野に“わが母校”（現重要文化財）のたたずまいを発見したのは、在校4年時の、東京の友に送る一枚の絵で、母校を客観視できた最初の出会いによってでした。

学童疎開の友が東京に戻り、一年近く文通が続き、安中4年終了間近に控えた早春のある日、絵筆をとって片平村や磐梯、安積山を背景に母校を描いて一枚の絵を送ったのです。

かじかんだ手で、想い出を送りたい一心で仕上げた母校風景の水彩画は大変喜ばれました。

この一枚の絵が、焼土と化した東京の土を踏む第一歩となり、家族の方々にも安積を語る想い出の一つになったとのことでした。彼が若くして他界し絵も失われましたが、絵筆で母校を客観視できた鮮烈な発見の感激は、同時に亡き友に対する忘れがたい青春の思慕心象風景となっております。皮肉にも戦時学童疎開がもたらした出会いでした。

東京での初体験の春休みの後、新学期は旧制中学組と新制高校とに制度上の編成替えがありました。間もなく、時代の鼓動、青春の息吹相俟って未公認でしたが郡山市内の高校弁論部を母胎に県下初の郡山市学生社会研究会、

弾性無限への挑戦
工業用ゴム製品の製造
株式会社朝日ラバー
代表取締役社長　伊藤　巖　（65期）
本　社　埼玉県川口市赤井2丁目13番11号 〒334
埼玉工場　電話0482(85)2251(代表)
FAX 0482(85)2254
福島工場　福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地
電話0248(53)3491(代表)　〒969-01
FAX 0248(53)3493

しかも安中歴史始まって以来の男女混成組織を結成しました。

安高メンバーは高3丹治成男、高2橋本政一、大橋力雄、菅野豪章、高1佐藤司、植田稔、遠藤実氏らがおり、県庁見学会、国会見学会、丹治郡山市長を実現した街頭応援遊説、ヘレンケラー女史来日時の街頭青い鳥カンパボランティア等々の活動をしたものです。

おそらく現時点でそれらの活動が可能であったか、父兄会、校内で問題にならない筈はなく、時の津田校長代理や増子教頭の理解に助けられました。

戦後の社会的この一石が県下各地に波及し、校内でも生徒会や公認クラブ誕生の足がかりに発展したようです。

激流形成に寄与した群像の一人佐藤司氏の発案で昭和24年高校3年時、新聞部を創設し、安積高校新聞発行の快挙を成し遂げました。メンバーは高3東原、和田、須賀、高2佐藤司、佐藤和秀、長沢、小野口、安永、小山、柳沼、高1森合、戸屋、佐藤光邦、金子氏らで、戦後民主々義による美しい星の様な出会いでした。在校最終号第5号にさりげなく紹介させて頂いた民主々義の旗手、安積の誇る大先輩朝河博士の“朝河桜”のエピソードとの出会いがありました。安積在学6年間での二つ時代、戦前戦後の異常体験に一貫して流れた安積魂があるとすれば、今の日本に多くの示唆を与える朝河学に見出します。40年ぶりに、東京桑野会沢田会長のご案内により、朝河貫一書簡集に接したのですが、博士の意中の友L・ウォーナ著作「飛鳥朝の日本彫刻」に寄せられた長文の序文「新しき友へ」を驚きと感動で読了し、後日沢田会長に所感を申し上げました。「朝河博士は推古朝前夜における東洋文化と日本人の出会い、明治維新前夜における西洋文化と日本人の出会いに焦点を当てられ、氏族制度と封建制度を超えゆく超大型の文化を吸収しえたわが国の進路は、二大文化を世界史的に止揚し、島国根性を脱却して人類視点の文化の融合と調和をもって世界貢献すべきであるとのひたぶるな道標と情熱ではなかったでしょうか」と。沢田会長は率直に「私も同感です。」と即答されました。安積の同窓として誇れる数々の出会いがあったことに身の福運を大切に、世界の朝河学派の人材輩出に心労を尽される方々に心より感謝の意を表します。平成2年12月大晦日。

（ダイヤ建設　法務室長）

## 歯科領域における口腔外科について

佐藤　廣（69期）

一般に「歯科」と言えばウ蝕（俗にムシ歯）や歯槽膿漏症を想像し、歯の欠損があれば義歯（入れ歯）を、また歯の保存が不可能であれば歯を抜かれる程度のことは世間の人々にもよく知られている。

現在の医療体制から医科と歯科の診療科目についてみますと医科では内科、外科および耳鼻科などがある様に歯科大学や歯学部附属病院においても一般の医科と同様に歯科保存科、補綴（ほてつ）科、歯科矯正科、小児歯科、放射線科、歯科麻酔科（全身麻酔も含む）および口（こう）腔（くう）外科の各専門分野に分れております。しかし、医科では○○科と標榜は出来ますが、これらの専門分野があるにも拘らずすべて歯科では「歯科」のみの標榜しか出来ないのが現状であります。私はこの中の口腔外科を専門としております。したがってわが国の口腔外科の診療科は、歯科大学、大学歯学部附属病院、医学部および総合病院などにみられます。

それでは口腔外科ではどんな病気を扱うのかと申しますと、歯、顎（あご）、口腔ならびにその隣接組織に生じた先天性の奇形（兎唇、口蓋裂）や異常（上顎前突、下顎前突）、歯が原因で起る顎骨の炎症である顎骨骨膜炎や顎骨骨髄炎、交通事故やスポーツなどによって起った顎の骨折、良性腫瘍、悪性腫瘍（歯肉癌、舌癌、肉腫など）、顎関節疾患、顔面神経麻痺や三叉神経痛などが主な対象となります。その治療方法も局所的と全身的療法によるところが多い。元来は歯科医学、歯科医療の部門ではありますが、これらの中では最も医科的要素がつよく、したがって歯科と医科との谷間に属しますのが口腔外科であり、一般の人々には知られてはいないのではないかと思われます。

私が何故口腔外科を紹介したかったのかと申しますと特に外傷で顎骨骨折などが他の一般歯科領域で治療を受けた場合に顎運動などの機能障害のみられることがあります。的確な処置によって、顎、顔面などに変形や審美的な障害がみられないで済むこともあるのです。また良性腫瘍の一部や悪性腫瘍などの病変では顎の切除が時として行なわれますが、これによって生じた骨欠損部には審美性および機能障害を回

株式会社　東京シンクサービス

●業務　特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査

●特色　高齢者の雇傭
（全従業員の91％が60才以上、70才以上は54％）

〒101東京都千代田区内神田2－13共同ビル
電　話（03）3254-5805
代表取締役　鎌田　正二（43期）

復する目的で骨移植が行なわれます。また上顎の切除の場合には特殊な入れ歯を製作し、発音などの回復につとめます。また最近では組織に為害性のない人工補塡材料として、ヒドロキシアパタイト、アルミナセラミックスなどが用いられています。以上述べてきましたが、口腔外科の使命は顎、顔面、口腔領域に生じた疾病に対し、その治療と予防にあります。咬むことと発音および審美性を要求されますので治療や手術もその機能の回復にあります。ここが一般の外科と異るところであります。歯科の学生の教育は勿論でありますが、口腔外科医は疾病の治療と予防につとめ、人々の健康を守ると同時に人類の福祉に貢献出来る様に毎日努力しております。

（日本大学歯学部教授、歯学博士）

## 二つの出逢いと私の理科教育

寺木秀一（81期）

わが国の小学校学習指導要領が12年ぶりに改訂された。新しい教科「生活科」の新設など話題の多い改訂であった。その改訂に理科の委員として具体的な作成作業に関わる機会を得た。

会議は昭和63年の4月から毎月1～2回開催された。小学校の教師、大学教授、指導主事などメンバーは多彩であった。なかに宮崎県から飛行機で参加する委員がいた。少壮の宮崎大学助教授である。同じような名前の人を知っている。顔もにている。「先生の、出られた高校は－」「宮崎県の○○高校－」他人の空似か、あるいは近年悪化して止まないアルコール性健忘症かと諦めていた。

年の暮れの委員会のあと、食事をしながら「高校は－、転校しませんでしたか」我ながらしつこすぎるかしらとは思ったがもう一度尋ねた。「郡山の安積高校というところに2年の夏までいました」

そうだ、あの角屋重樹クンだ。

そのあとは、郡山残留孤児探しの呈である。

・二人は化学の本田先生のクラスで、席を並べていた同級生である。

・実に22年ぶりの再会である。正確には再会をして10か月ぶりの身元判明である。

・二人ともクラブは地学クラブである。顧問は菅野一郎先生であった。

・この地学クラブでの徹底した野外観察主義が今の私たちのフィルドワーカーとしての素地になっていることは確かである。

奇縁である。そのふたりが指導要領の改訂委員、さらに指導書の作成委員でそれも同じ区分（分科会）で再び机をならべることとなったのである。

しかし、話はこの程度でとどまった。私のなかで何故か安積の3年間は不鮮明な記憶しかないのが正直なところである。その原因はどこにあるのだろうといつも自問する。

それはともかくとして、その角屋助教授も近い将来はわが国の理科教育を支える方になるのは間違いのないところである。

二人目は鈴木洋一郎先生である。

現在わたしは、文部省の小学校の理科教材の設備の基準の作成に参加している。その会の主査を務められているのが、鈴木先生である。葛飾区の校長先生で全国小学校理科教育研究団体協議会の会長をしておられる。

その鈴木先生も安積中学に居られたということも最近知った。これも雑誌の編集などを通して6年来のお付き合いのなかで初めて判明したことである。

角屋先生も鈴木先生も安積を卒業はされていない。

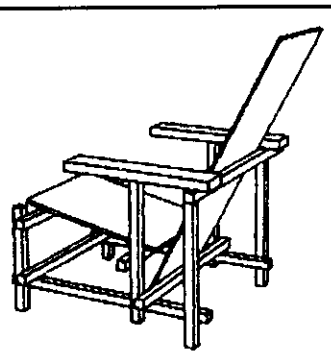
このふたつの安積にまつわる再会が現在の私の理科教育を支えていると言ってもよい。

（多摩市立中諏訪小学校教頭）

## 新聞記者斉藤信也と安積中学

佐藤　司（64期）

安積中学（旧制）が生んだ名コラムニスト。昭和を名文で綴った男と称された朝日新聞の論説委員斉藤信也先輩（昭和6年安中卒）が、この世を去ってから三回忌をむかえる。その瓢々たる風姿は、安中生の稚気を生涯背っていた。七十三歳であった。斉藤信也先輩ほど、あこがれた新聞記者はいなかった。しかし、生前、私は一度も知己を得たことはなかった。今は「樹木」同人の歌人となった、私の弟光邦（安積高4期）が斉藤信也先輩にあこがれて、今から三〇年前、朝日新聞の入社試験を受けた。第三次選考の重役面接のとき、斉藤信也先輩の推薦状を出したら「ほうー、あの斉藤信也にも、こんな可愛い後輩がいたのか」と云われたと云う。当時、その言葉のもつ意味を知るよしもなかったが、後年、論説

●婚礼家具
●リビングセット
●リビングボード
●ダイニングセット
●ハウジング特注家具

快適な暮らしに役立つ
応接・収納セット専門メーカー
マルクワ家具株式会社
株式会社　マルクワ

本社　〒345 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360　0480(32)1131
卸センター・ショールーム　〒345 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360　0480(32)1131
杉戸工場　〒345 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360　0480(32)1131
自宅住所　〒345 埼玉県北葛飾郡清地1-5-18　FAX 32-1139

常務取締役　橋本大三郎（66期）

委員でありながら、何しろ「素粒子」のコラムの専任執筆者として退職までの十九年、ほとんど出社せず、自宅から電話送稿ですました人は、朝日新聞社広しと云えども斉藤先輩一人ではなかっただろうか。

斉藤信也先輩は、石川郡白石村に生れた。父の斉藤千代吉が安積中学校の国語・漢文の教師として転勤してきたので、郡山市橋尋常小学校に転校して、そこを卒業している。兄、立哉氏も安中卒であったが、スポーツマンで技術者となった。斉藤千代吉先生は、酒好きで、謹厳実直だったらしい。安積中学のことだから仇名もついたろうが、知るすべはない。後年、安積女学校の校長になっている。信也先輩は次男坊で毒舌家であったらしい。

しかし、頭がよかったのか、安中四年修了で、弘前高校に三番で入学している。東大文学部を経て新聞社に入ったが、斉藤先輩ほどエピソードの多い記者人生を送った人も珍らしい。その間のことは、共同通信社のニューヨーク支社長・論説委員だった、安積中学、弘前高校、東大同期の畏友、高田秀二先輩（42期）がくわしいはずである。かつて、扇谷正造氏をして戦争記事の名品と云わしめた、斉藤信也海軍報道班員の「キスカ攻略記」の取材には、実は、安積中学の一先輩の力があった。その人の名は、市川重中佐（安積中学の先輩で、福島県日和田町出身、現在東京本籍）であった。当時、アリューシャン作戦に同行し、海軍北方部隊の旗艦「那智」に同乗したら、そこに安積の先輩で、豪快で、質実剛健な、副長市川中佐がいた。上甲板で二人きりで話を聞く、と遺稿「従軍日誌」に書き残している。このアリューシャンの従軍が、本モノを見抜く眼を開眼するきっかけとなったと回顧している。この市川重中佐の長男が重尚氏（61期）で、次男重方君（64期）は、私と安積高6年間同級であった。

とまれ、斉藤信先輩ほど、新聞文章の美学を追い求め、その一言一句に鏤骨（るこつ）の文字をほり、そこに、人間の本質を見抜いて、やさしく、深く、もりこんだ人はいない。生涯ついに郡山訛が抜けず「おりぇは安積中学だ。知ってっか」と云っていた。自ら、花を咲かす幹や根ではなく、いつ、散るかわからない「葉っぱ」の様なものだと、自嘲と含羞（はにかみ）を込めて「葉」と署名していた。その先輩も、もういない。噫々。

この道を春寒うして　君行くや

（亜細亜大学法学部教授）

## いたるところに「安積」

**高田重夫（54期）**

このところ、仕事上、旅行がとみにおおい。安中時代（戦時中）郡山から上野駅まで、汽車で6時間ほどかかっていた。もちろん「学生は急行などとんでもない」といわれていたころだからドン行での話だ。

いまはみんな新幹線。1時間ちょっと。隔世の感という。ついでに申せば、飛行機に乗ると、九州でも北海道でも東京から2時間とはかからない。用向きによっては日帰りも可能というスピード時代。

北海道のヘソといわれる富良野市の隣町「美瑛町」を訪れた。「びえい」と読む。アイヌ語で「油ぎった川」という意味だそうだが、それではいくらなんでもと「美しく、明朗で王者の如し」という字をあてたというのだ。

シラカバが町木、町花がスズラン。7月には“北の浪漫美人”ラベンダーが紫を競い、麦畑とじゃがいもの白い花が見事な丘の町。近年、はやりの地域活性にこの「丘あるき」をPRしている。

おおらかな起伏。そよ風がポプラをゆらす。はるかに十勝の山やま。はじめてなのに「あれえー、いつか来たみち？」。そんな思いに、歩をとめさせられる。

そうだ！安中への道だ。麓山公園から公会堂わきの小坂をのぼり、水タンクの下に出る。サクラのトンネルを抜けると、そこに、ながらかな夕陽ケ丘がひろがる。安達太郎が裾をきれいにひき、五十鈴湖が影を映す。遠く磐梯。私たちは“中山道”と呼んだ。この光景、いまはない。

岡山市近くの小さな駅。人身大のポスターに、見覚えある洋風白亜の館があった。目を疑いながら近づいてみると、まぎれもなく「安積高校旧本館」と刷り込んであった。バルコニーがひときわいかめしい。

ＪＲが観光用につくったものだ。それにしても、みちのく代表とはおそれいりやだ。思わず〜鉄路2百里東北の……ヤレヤレヤレヤグルマイタホー、ドンガドンガドーンガドンガドンガドン。

雄大な阿蘇外輪を大観望から北上。

各種貯油槽・圧力容器・製缶・化学プラント設計施工

興和鐵工株式会社

福島県郡山市富久町久保田字大久保63
電話　郡山　(0249) 22-3840 / 32-3292
FAX　(0249) 33-6104
代表取締役
荒井　孝一（78期）

天を突く鉾形の小国（おぐに）町に入る。熊本空港から車で1時間。羽田からの飛行時間とほぼ同じ。日本もほんとうに狭くなったものだ。

奇抜なデザインの建物が目をひく。町営の体育館は杉並の中に、巨大な亀の甲のような姿を見せる。ビッグ・タートルが愛称。東京の後楽園球場「東京ドーム」と“同期生”だという。木造立体トラス構法といって、すべて、地場の杉の間伐材を使っているので有名である。

林業王国だけあって「木の復権」がねらいのようだ。町中心の交通センターもこの構法の木造二階建て。階段も手すりも、節くれだってはいるが木の感触がまたあたたかい。ここにも、桑野の、あの学び舎があった。

どこへ行っても、いつでも、こどもが母親をしたうように「あさか」が在（あ）る。年齢のせいばかりだろうか。

（元東京新聞記者）

## 安積の6年

**倉澤俊郎（65期）**

昭和21年から26年までの6年間を、安積で過ごした。私達の同期生は時代の節目に少年時代を送った面白い世代だと思う。

尋常小学校に入学した翌年に学制改革で国民学校となり、敗戦の翌年に安積中学に入ったと思ったら、又しても学制改革で六三三の新制高校に移行した。尋常小学校の最后の入学生、国民学校の最后の卒業生、旧制中学校の最后の入学生という三つの栄誉を担った年代である。安積中学の入学試験は口答試問と筆記試験の二本建であったが、敗戦直後のことでもあり、歴史や地理はなく、算数と理科と国語の三科目であった。校門の右側の奉安殿のあたりに、ジュラルミンの山があった。戦闘機の仕掛品の残骸ででもあったのだろうか。敗戦直後の混沌とした時代で価値観が180度転換して目標を見失った頃であったが、合格発表に自分の名前を見つけた時は嬉しかった。早速、校章と白線を買い、戦闘帽に巻きつけて親戚まわりをしたことを覚えている。

その后、新制中学の発足に伴い、安積中学校併設中学校、安積高等学校併設中学校を経て新制安積高等学校に編入された。従って安積には6年間お世話になった訳であるが、そのうちの4年間は新入生がなく最下級生に甘んじた。そのせいか下積みの苦労を身にしみて味わったおかげで、同期生の団結が固い様に思われる。

6年間の思い出はつきないが、概していえば、自由奔放に好きなことをやらしてもらったという感が深い。私にとって生徒会活動に参加したことは、性格や物の考え方を大きく変える契機となった。紆余曲折はあったが渡辺太郎さん、植田稔さんの二代の会長のご苦労にもかゝわらず生徒会解散か否かが真剣に討議される様になった。理由は色々あったが私達2年生の同志の強い熱意により存続と決まり、生徒会長に推されたが、同期の人達のバックアップによって、充実した毎日を送ることが出来たことは、今振り返ってみても感謝の気持で一杯である。加えてクラブ活動も全盛期を迎えようとしていた。校長室が優勝旗や盾で非常に華やかだったのを覚えている。特に兄と一緒に野球部に関係したせいか、昭和26年の県大会に初優勝したことは、最終学年であったせいか特に印象に残っている。惜しくも東北大会の決勝で福商に敗れ甲子園の夢は実現しなかったが、試合での一齣一齣が今でも目に浮かんで来る。毎年夏になると安積の勝ち負けが気になってならない。一度先輩として、甲子園で思い切って応援歌を合唱したいと思っている。

今、当時の安高新聞をみると「六年の星霜は遂に私をこのように変らせてしまいました。この安積野の環境が魅惑的であったばかりでなく教訓的であったのを知るのは一人私のみではないでしょう……」の気持は今も変らない。

（元住友銀行、住友クレジットサービス常務、現在株式会社リョーサン常務）

## 思い出と

**浜崎洋光（66期）**

昭和18年の夏、安積高校正門近くに住むように成りました。それ以来、昭和28年3月に卒業するまで、毎日のように、構内に足を踏み入れて居りました。

従って、私にとりまして、母校安積高校は幼年時代の我が家の庭であり、少年時代の学舎でもあり、そして父が生涯お世話になった職場でもありましたので、思い出が尽きません。今でも郡山の実家に帰るたび、安積の旧本館を仰ぎ見て、つい昨日の様にその当時


**索道施設の総合設計施工管理**

**豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス**

**東京索道株式会社**

本社・工場／横浜市金沢区鳥浜町12－9

☎045(776)6550（総務部）

●ゴンドラ　●スキーリフト

●ロープウエイ　●ケーブルクレーン

札幌営業所011-232-5382／仙台営業所022-267-0544

新潟営業所025-241-7147

代表取締役社長　横尾　稔（第66期）

のことが目に浮かんで参ります。

終戦の年の夏休みの或日の早朝のこと、校庭の真ん中に、アメリカの艦載機グラマンから発射された機関砲の銃弾が打ち込まれたことがありました。戦時中、時には旧寄宿舎の建物の一部が軍隊の演習の仮宿舎と成ったりしながら最後には疎開軍需工場に変身しようとしていました。また終戦時には、正門付近に日本軍の戦闘機の残骸が多数持ち込まれたこともありました。この機体の中に燃料タンクを敵弾から守るためのゴム板があって、そのゴム板を抜き取り、手造りの野球用のボールを作り、皆で遊んだ事もありました。当時は運動靴も無く皆裸足でしたので、帰りには足を洗わねば成りませんが、その時、有り難かったのは、旧本館西端の小使室付近に在った手洗、足洗場でした。

公共水道の無かった桑野の町に、何時の頃、どうしてこの水道が引かれたのか良くは解りませんが、安積に私設の水道が設置されていたのでした。その頃、針金で外周を巻いた木管が水道管として使われていたようでした。木管と木管の継手を何のようにして継ないで水圧に耐え水を学舎まで導いてきたのでしょうか。

今では、鋳鉄管、瓦斯管、或は塩ビ管等で容易に出来る事も、当時としては大変なことであったと思います。

昨年のNHK大河ドラマ「翔ぶが如く」の司馬遼太郎原作の最終段に触れられていますが、安積疎水工事は明治10年頃、国の一大事業であり、安積野ヶ原がいかに水に困っていたかが伺えます。我が母校も、創立当時から、水の確保に問題があったろうと想像されます。

僅か50年ほど前に、木の水道管を見た私が、今現在、鉄の産業界の中で生きて居ります。あの子供の頃を思うと鉄の消費に隔世の感が致します。

安積高校の歴史は1世紀をこえていますが、今の自分の仕事の歴史的流れとラップさせてみると、その重みが実感として沸いてくるような気が致します。

今、東京駅八重洲口地下のスペース・クロックは21世紀迄の時間を示して秒読みをしています。新しい時代を担う多数の有為な人材が我が母校から巣立ち、21世紀に飛翔することを祈って居ます。

（東鋼興業㈱取締役業務部長）

## 会費が高くなる時

佐藤　厚（97期）

若い若いと言われてきた我等97期生も、いつの間にやら年をくって、今年は私も大学院を卒業し社会人になる（予定である）。会費が高くなる時がとうとう来てしまったようだ。

現在、私は卒業のため修士論文の完成に向けて、日夜というか、夜な夜な研究に励んでいる（つもりである）。論文の題目は「ロッボットアームの共振特性を改善する制御系設計」。そろそろ提出期限も近づいてきており、コンピュータとにらめっこの毎日である。この文も、学校の計算機室で書いているのだが、後ろから隣の研究室のH助教授にのぞき込まれて、何だか書きにくい。離れて見れば、研究しているように見えると思ったのに。

只今、12月28日午後6時ちょうど。大学は今日の午後8時で閉まってしまう。ということは、あと2時間でこの原稿を完成させなければならない。幸いなことに年の瀬もこう押し迫ってくると学内にも人が少なく、ちょっと落ち着いた気持ちで物事を考えることができる。やっと、H助教授も帰ったようだ。そう言えば、このH助教授は高校時代（広島の有名高校らしい）にバスケットボールの選手だったのだが、インターハイで安積高校に負けたそうだ。

私が初めて東京桑野会の親睦会に出席したのは、大学2年生の時のこと。同期の指宿氏が電話で、「同級会に行かないか」と誘うので、軽い気持ちで行ってみると、思いのほか高級なところ。それでも気遅れしながら入っていくと、年配の方々と、豪華な料理の山。同期の顔を見つけたときにはほっとしたものだった。初めのうちは、同期生で固まって、日頃食べられない料理をむさぼっていたが、会が進むにつれて、大先輩や若い先輩方が気さくに声を掛けて下さり、段々にリラックスできたような記憶がある。その時には一番若い世代であったが、最近の会では100期生という3桁の番号の後輩が見られるようになった。後輩が増えてきて喜ばしい限りである。

それから、同期どうし、毎年誘いあっては出席するようになった。同じ東京に住んでいるとはいっても、やはり、何かのきっかけがないとそうそう集まれない。東京桑野会は、その「ちょう


電気工事業

株式会社 郡山電機製作所

本社工場
〒963 福島県郡山市富久町久保田字本木五四番地
☎郡山 0249(32)2686(代表)
FAX郡山 0429(32)7743

山形営業所
〒999-31 山形県上山市永野字川原2844-3
☎ 上山 0236(79)2701

代表取締役
成田　幸一（52期）

ど良いきっかけ」でもあった。しかし、初めに出席した時には大勢いた同期生も、1人減り、2人減りして最近は淋しくなりつつある。かくいう私も新入社員研修のため、今年はどうも出席できそうにない。しかし、就職先（NTT）は多分東京近郊なので、来年からは復活して、忘れかけている応援歌をまた歌おうと思っている。

（東京工業大学修士2年）

## 二枚の絵

**中井惣吉（65期）**

原稿依頼を受け、さてどんなテーマにしようかと考えた時、頭に浮んだのが我家にある二枚の絵のことでした。

一枚は高校時代の恩師、水田荘介先生が1970年の夏1ヶ月程パリに滞在された時の作品で、モンマルトルの丘に通じる街並と、丘の頂上に建つ白亜のサクレ・クール寺院を描いた油絵です。

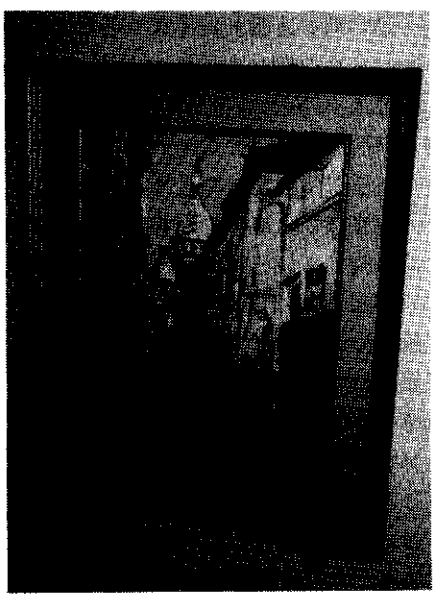
もう一枚は、パリに永住し銅板画家として現在も大活躍されている岩谷徹さん（同窓）の「一葉」と題する銅板画で、一枚の葉をメゾチント技法により、重厚かつ繊細なカラータッチで描いた作品です。

水田先生とのご縁は、先生が亡くなられた今も周子夫人との間で続いておりますが、専門の絵を通じてではありません。生来一番苦手な学課が「美術」ですから、高校の三年間先生から誉められた記憶は皆無ですし、先生と特別親しく口をきくこともありませんでした。

私が大学を卒業し日本航空に入社後4～5年経った頃、同じ整備本部の他の部門に勤務されていた先生のお嬢さん幹子さんと出合ったのがきっかけでした。幹子さんを通じ先生の近況を知ったり、手紙を差し上げたりして少しづつ親近感を増し、1970年先生がパリに行かれるということで渡航手続を手伝ったり、パリにある日航の友人を紹介したりしました。独りでの気まゝなパリ滞在は大変楽しかった様で、後日お世話になった御礼だと前記の絵を送って下さったものです。10号程もあり、我家の応接間に飾っていますが人物画の多い先生の作品の中では貴重な絵であろうと思っています。

その後、再度のパリ行きの時にはやさしい目を輝かせた先生を羽田空港で見送ったり、日航のカレンダーがお好きだったので毎年送りますと、封書や作品の印刷された葉書に達筆な字でお礼の言葉と近況を書いて下さったり、そんな関係がずっと続きました。

先生が亡くなられたのは、私がモスクワ勤務（1985～1988・日航モスクワ支店長）しておる時で、後年お逢いする機会がなかったことが大変残念でなりません。



岩谷徹さんとの出合いは、モスクワ時代、在モスクワ日本大使館員の奥様が周子夫人の親友のお嬢さんだったため、親しくお付合いしており、某日、御夫妻とパリに遊びに行った折、ポンピドーセンターに近い岩谷さん宅を訪ねた時です。安積女子高出身で画家の奥様ともども話に花が咲き、アトリエや作品もみせていただきました。そのとき大変気にいって買求めたのが「一葉」です。

絵心のない私が、プーシキン美術館（モスクワ）、トレチャコフ美術館（レニングラード）、それに大英博物館やパリのルーブル、オルセー、ピカソ各美術館などに足を運ぶようになったのも水田先生の影響だと後日モスクワに遊びにこられた周子夫人と話し合ったものでした。

今もって絵の見方は判りませんが、それぞれの絵とのかゝわり、思い出などは何ものにも代えがたい交遊録であり、貴重な財産だと思っています。

昨年の暮、現在能面シリーズの製作に専念しており、夏か秋には日本で展覧会を開く計画だとのお手紙を岩谷さんから戴きました。

その時は御夫妻とのひさしぶりの対面、そして周子夫人や幹子さんとも多分お逢出来るのではないかと今から楽しみにしているところです。

（日本航空健康保険組合常務理事）

UNEME 采女 TRADE MARK
東北一円足まめに……。ふるさと商いは心です。
世界のトップファッションをネットワーク。
ふる里の肌ざわり　采女印製品
お店の繁栄　豊かな暮しをリードする
総合衣料問屋　株式会社　金　大
福島県郡山市喜久田町卸1丁目68の1
TEL（0249）59-6464
代表取締役社長　小針　良雄（67期）

## 菊地沖之介先生の思い出

中路　信（65期）

あれは昭和22年の１月か２月の雪の日であった。

降り続く大雪の中を私は菊地先生と10キロも歩いたことを今でも鮮明に思い出す。背丈の短い先生が30センチも積もった雪道を一歩一歩黙々と歩かれ、その足跡をたどってこれまたチビ中学一年生の私が泳ぐようにしてついていったのである。

菊地先生は、戦前、戦後の長年に亙り安積の英語教育を担われ母校の至宝といわれていたお方であったが、一年生の私も上級生から次のような伝説めいた話を聞かされていた。いわく『菊地先生は、早稲田大学の英文科を首席で御卒業され欧米への留学を志されたが、短軀を理由に選に洩れ絶望のあまりに水銀を呑んで自殺を企られた。しかし一命をとりとめた後、一転して、あらゆる栄職のすすめを断って母校安積の後輩の教育に一生を捧げると決意されて、安中にずっと居られる人格者である』

そのような高名な先生と一緒に歩けるのを誇らしくおもっていた。因みに、先生と歩いた道程は、当時の穂積村八幡神社の前から駒屋、大槻経由安中までである。先生は御親戚に所用で行かれた帰途であり、私は岩瀬村今泉の家から郡山の下宿に帰るためだった。他に富岡の上級生数人が同行された。当日私は16キロ歩いたが夏場の徒歩通学では２時間半のところを、雪道のため５時間余りかかった。当時は敗戦後の最も物資が不足した時代であり交通事情も最悪で、先生も生徒も難行苦行を強いられた次第だが、却って師弟の距離は近かったように思えてならない。

私達65期生は、安中最後の学年ですが、英語は菊地先生の教え子である鈴木熊三郎先生と中館学先生に教えて頂き、菊地先生の正規の授業は受ける機会がありませんでした。ただ高校３年になって夏休みの進学補修で直接教えて頂くことが出来ました。シエクスピアのハムレットを力強く読み上げられたあの一種独特のお声は今も耳に残っており、授業は後輩指導の情熱がひしひしと感じられるものでした。その時『伝説は真実だった』と私は確信しました。

後年、私は三菱重工業に勤め重電設備の輸出業務に携わり海外駐在も経験することになりましたが、これは菊地先生の『怨念を昇華させた情熱』に導かれたような気がしてならない。

安高を卒業する時、菊地先生から頂いたお言葉は

**あ**つまりて
　　**さ**くらさくころ
　　**か**たらじや

であった。先生の安積の先輩から後輩に伝えてほしい母校愛への思いがこもった言葉である。毎年桜の咲く四月に開かれる東京桑野会には多くの先輩後輩と語りあって行きたい。

（㈱田町ビル監査役）

## イラク・ショック

渡辺嘉佑（67期）

1990年８月、イラクがクウェートに侵攻し、石油の価格がアッと云う間に上昇したことはすでに承知のことと思います。石油製品の暴騰は近年２度ありました。いわゆる第１次、第２次オイルショックと呼ばれているもので今回を第３次オイルショックと呼ぶかどうかは別にして、その度に石油会社に勤務している関係で友人等から解説を求められたりもしましたが、将来どうなると云う予想については、全く判らないと逃げることにしていました。この原稿が印刷されて会報が皆さんの手許に届く頃には戦争に突入しているか、それとも一件落着と云うことになっているのか全く見当もつきません。

そこで将来のことは別にして、３回にわたる石油暴騰の背景はどうだったのか、石油製品が値上がりしたと云う現象面では同じでも、実はかなり違った局面があるので、そのへんを整理し、会員諸兄の今回の石油問題を理解する一助になれば幸いと考えます。

(1)直接の契機は何だったのか

第１次…第４次中東戦争、アラブ産油国の禁輸

第２次…イラン革命、イランの石油生産急減

第３次…イラクのクウェート侵攻、石油輸入国の、イラクからの輸入中止

(2)国際政治、経済情勢はどうか

第１次…米ソ対立、高度成長期


公認会計士　星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101東京都千代田区神田錦町２丁目５番地(KSビル3F)

TEL(03)3291-8361　FAX(03)3291-8465

星　武典(58期)

第２次…米ソ対立、第１次オイルショックからの回復期
第３次…米ソ協調、息の長い着実な経済成長成熟期

(3)石油市場構造はどうだったか
第１次…公示価格制、メジャーの利権原油の長期契約
第２次…政府販売価格制、メジャー産油国の長期契約
第３次…市場連動価格制、石油先物市場の発達、産油国の期間契約とスポット取引の拡大

(4) OPEC の政策はどうであったか
第１次…事業参加、国有化政策
第２次…スポット市場追随の高価格政策
第３次…穏健派産油国が価格急騰抑制のための増産政策

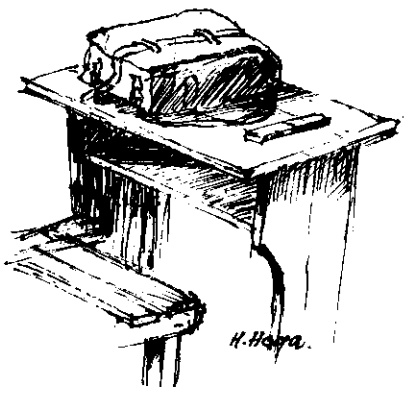
以上４点だけみてもかなりの相異があることが理解して頂けると思いますが、今までと大きく異るのは、前回までは産油国が禁輸していたのが今回は輸入国がイラクの原油を買うのを中止し、その分をイラン、UAE、サウジアラビア等が増産して穴埋めをしていることであるが、何と云っても一番大きな違いは、価格決定のメカニズムが、石油先物市場が発達し、期間契約で数量は決めていても、価格は市場価格の１ケ月平均で後で決まると云うことであろう。つまり原油の価格変動の激しい時は自分の買った原油がいくらになるのかその時点では見当もつかないと云うことになります。テレビでニューヨーク原油スポット市場１ドル高などと云っているのがそれで、この価格から日本向けの修正ルールで修正され価格が決定されるわけです。

不測の事態にそなえての備蓄量も、第１次の時は日本では67日でしたが今回は142日分あります。この分を取り崩せば安いのではと云う意見もありますが、安い時だけ積増しをしたわけではなく高い原油もありますので、価格引下げにそれほど効果があるわけではありません。

自由世界の石油依存度も第１次55%から現在は45%に下ってます。しかし日本はまだまだ石油依存度が高い方の国に属します。

第１次は1973年から74年にかけて、第２次は79年から80年、今回は1990年夏からはたしていつまでと云うことですが、いずれにしても石油と云うものが限りのあるものである以上オイルショックになったから省エネと云うのではなく、日頃から省エネを心掛けたいものです。１日も早い紛争の解決を願い、人質の方々の解放を祈りつつペンを置きます。(12月12日現在、人質の開放は実現して、続々帰国しています。)

(コスモ石油　取締役関連事業部長)




芳賀仁美 画

## 「安積と私」

**池上喜久 (61・62期)**

生粋の安積育ちではありませんが、安積と私との関係は深く母方の祖父が７期、31期の伯父は校門向って左に建立された友愛の碑東京桑野寮の記に「大正十年秋大方政一兄ら同志数人が……」と刻まれていますし、勿論父も33期。親戚の殆んどが安積卒という環境にあります。しかし私は前述の如く最初から安中に入学したのではなく、父の勤めの関係で神奈川県立横須賀中学に入学しました。その頃父の手許にあった安中卒業者名簿「安積に学びし人々」に何度も目を通し高山樗牛、安田善五郎など卒業生の絢爛豪華さに目をみはったものでした。昭和19年戦局急を告げ疎開が奨励されるに及んで阿武隈川畔の父の故郷に身を寄せる事となりました。父はそこから安積に通ったので、私も当然安積と思っていたところに正にお役所仕事で、そこがたまたま田村郡（現在は郡山市）であったため極めて事務的に三春の田村中学に編入され、山道を歩いて舞木から汽車で三春に通うことになった時の失望感は大きなものでした。しかし田村中に父と安中同期の高久田先生がおられ、終戦を機に安中への転校手続きをして頂き晴れて安中の生徒となったのは３年生の秋でした。

転校してすぐに菊池先生や武知先生の授業で出欠をとられた折、たまたま名前が父と酷似していたゝめ君は善次君の倅かという事で親子二代にわたっ


SUB LEASE

**竣工の日から賃料保証　面倒な手間が一切不要　共同ビルのコーディネートもいたします。**

**帝人殖産株式会社**

〒100 東京都千代田区霞が関1-4-4
TEL 03-3506-4936

理事　水口　禎 (67期)

て教えを受けたり、英語の奥山先生からは修学旅行の際横須賀にも行き戦艦三笠見学の際、いろいろ君のお父さんにはお世話になったと言はれ、父のアルバムにクラス毎の生徒達と記念撮影した写真があったのを思い出したものです。

先生で思い出すのは、5年か高3の時か記憶は定かではありませんがサハリンでソ連に抑留され復員された化学の中野先生が教壇でまさかインターナショナルではなかったと思いますが抑留中に覚えた歌をロシア語で歌われ一同吃驚したものでした。そこで一風変った先生だと級友の根本君（父君は保護者会々長だったと記憶）と先生宅を訪ねたところ、未成年の生徒にビールを出され初めて飲んだホロ苦さを今でも覚えています。

ところで安中には現大東銀行本店の近くから通ったわけですが、丘の小道といった感じの私の出生地でもある鶴見壇あたりの通学路からは、傾斜地の畑を通して浄水場の大きな水面が拡がり、晴れた日には那須連山から磐梯、安達太良、吾妻連峰、かすかに蔵王まで見渡せた風景も昔語りとなってしまいました。又途中には麓山公園があり野球場もあってノンプロ、プロ、中等野球等思い出が山積していますが、今でも心痛むのは津田校長（正式には校長事務取扱い）。当時或る先生の排斥運動があり授業を放棄して級友達と麓山球場にこもり、県学務課から現場の校長として出られ（と記憶している）、将来を嘱目された津田先生を大いに困惑させ申し訳ない事をしたという思いです。

個人の回想録となってしまい他の方には何の興味もない駄文を綴ってきましたが、安中最後の61期安高最初の62期2枚の安積卒業証書を頂いて40有余年、年を重ねるに従い心の故郷安積への思いはつのる一方です。

（ニューウォールシステム㈱取締役）

## 懐しき安積中、安積高時代の想出

伊藤四郎（65期）

今回東京桑野会広報部から突然の原稿依頼があり私如き文才弱い人間に、今日この頃は誰しも多忙であろうが、安中・安高時代の生活を懐しく想い浮かべたいと思う。昭和21年4月1日、私は憧れの“桜に中”の徽章の安積中学校1年2組近藤平先生担任のクラスに入り、希望に満ちた学生生活が始まった訳である。開成山を毎日の如く先輩の橋本幸衛、片平村の渡辺太郎、小山田の小野寺茂先輩方と、西北に磐梯山安積山安達太郎山を眺望し都会には考えられない砂利道を富田から約4粁1時間の行程を高校も通して落第もせず、6年間健康で休まず、良き先輩方を手本として風雨雪をものともせず通学したのも感銘するものであり、今考えるに良く頑張った事を吾ながら賞讃するものである。中学時代は特に勉強勉強の明け暮れで福島県No. one の中学校と言う誇りをもって無我夢中の中に、最後の安積中等の生徒の1人として、3年間も束の間中学を終了して、安積高校に進学出来た事を思い出す。中学に入学した時も、“吾人は須らく現代を超越せざるべからず”“樗牛”の伝統とも言うべき大額を尊望しながら校歌応援歌の練習で昼休みの1時間をバ声を張り上げ応援歌の練習は今でも脳裏から離れず記憶に真新しく、不思議に思う程鍛えられたものである。高校1年時に同通学路の長谷川猛夫団長のもと、応援団の一員として入団し、空手同好会の一員でもあり大変ではあったが、合い間をみて応援に駆せ参じたものである。高校2年時、団長を仰せつかり顧問の浜崎・柳沼両先生の指示のもと一生懸命応援をし、勉学の安積からスポーツの安積へと脱皮し目覚ましい戦績と活躍を影の力として残したものである。一年後輩の豪腕野田投手をマウンドに送っての東北大会優勝へのそして甲子園初出場の夢も敗戦に果たせず、今以って一度も参加出場出来ない事は夢物語りの様で本当に当時は凄かったのだと絶讃せざるを得ない。外に優勝団体は、野球部を筆頭に、サッカー部、橋本公憲キーパーのハンドボール部、陸上走巾跳の大山君、バレー部、ラグビー部、卓球部等学校一丸となって栗原茂校長を筆頭に優勝に湧いたのである。吾々団員一同も感激は人一倍であった。スポーツも有名になり、学問とスポーツが両立出来る伝統も出来上り、倉澤、鈴木、千葉、樽川、今川君等、河合、小野君もN響の指揮者として活躍され吾々の時代は文武両道の黄金時代であった。最近の運動部に限らず安積の伝統は生きているものと思うが“努力して結果が出る”事は忘れてならないと思う。応援団OB柴魂会が柳沼・竹花両先生を顧問に長谷川猛夫会長にて結成され側面より学校に応援される事は喜ばしい限りである。

株式会社 櫻井淳計画工房
J. SAKURAI PLANNING ASSOCIATES
櫻井 淳（78期）
〒150 東京都渋谷区桜丘29-24 秀和桜丘707 PHONE. 03-3462-4161～2 FAX. 03-3462-4163

私達の卒業以来の同級会五十鈴会も年1回約30名位東京在住者でタマには恩師を招いて昔日の歓談に一夜盡きる事もなく集まり、校歌応援歌を昔日の想出を浮かべ歌う一コマも、安積ナラデハの感を呈し良き学舎に良き友を得た安積のお蔭と感謝するものである。桑野会が益々発展を祈念し筆止とする。

## 弥生時代の聖語

車　　元（52期）

弥生時代の聖語は、国名、人名、地名、の呼称に特有の意義を持つ。

聖語とは、蒙古系諸民族の国名、身分の高貴、及び聖なる山岳等に使用される、H、K、S、T、Mの五字である。即ち、王と貴族の名称に、馬加、牛加、猪加、狗加、並び犬使等の五字を使う。これは、牧畜経済時代の族長の呼称がその儘階級分化に残存した為である。

吾々の祖先である濊貊族は、秦の漢族統一によって南方への進路を阻まれ、その一派である扶余族は興安嶺に向い、その余族は一路朝鮮半島の東岸を南下して行った。

これが貊族の高句麗、馬韓となり、濊族は東濊、そして弁辰となり弥生初期から海を渡って倭国を建国した。

この流れが言語にその儘受けつがれている。次に、聖語一覧表を呈示しこれを説明しよう。

邪馬台とは、クシ（新羅伽倻）、クマ（高句麗、馬韓）、クダ（百済）を総称しており、濊貊徒の交替形である。

邪はヤ音とサ音共有し、濊はYaeとYaeの二音を持っている。濊は濊倭和日（＝Yae Wae Wha Hi）となり、Kaeは伽椰となる。いづれも日が根源であり、干、君等王称に交替する。居西干、麻立干等である。又諸神の呼称は諸てが、聖語の用法の仕方で、百済系か新羅系か伽倻系かに区別される。

聖語はいづれも、高、御、貴、聖、等の意味を持ち相互に交替できる。

火はヒ“か”。高はタカと“こう”。御はミ、オンと“ご”。弁はベンと“かさ”の如く、HKSTMは互に交替出来る。

伐（Boul）は原ハラ、国を意味し記紀に多く見られる。数字の壱はヒ、拾はソ、百はモ、仟はチ、億はヨロヅでヨロは韓語の拾、ヅは仟で仟の十倍即ち億である。

聖語一覧表

| | | |
|---|---|---|
| 建<br>クク（句麗）<br>タケ（百済） | 神<br>クマ　馬韓　高句麗<br>カミ<br>クマ（狗呉）<br>クヌ | 久土<br>クシ　居西<br>伽耶　新羅<br>建句　始林<br>啄　鶏林<br>豊高　Talk<br>TK　ST　H<br>高ミムスヒ神<br>ウマシアシカビヒコヂ神<br>豊雲野神 |
| 天常立神<br>国常立神 | 神　ムスヒ神 | |
| 豚<br>建日 | 馬<br>向日 | 大　牛（鳥）日（ヒ）<br>豊久土日<br>天のイワクラ<br>イザ<br>クヂヌル |
| タタラ<br>タラシ | 空国（ムナ） | イザナキ<br>イザナミ<br>オシュロ　多婆那<br>（大加羅）　（丹波）<br>伊藤国<br>伊都国<br>空国（カラ）　ソラ |
| 一言主神 | 大物主神 | 大国主神<br>大穴牟遅<br>葦原色許男神<br>ハチ矛神<br>ウマシ国王神 |
| 台、頭、田 | 鉢、味 | 山、濊、邪<br>温烏邪馬国 |

聖語使用例

1．泉(T)　薑(K)　稗(S)　文(M)　高句麗権臣
2．ヤマト(#)　トト(T)　ヒ(H)　モモ(M)　ソ(S)　ヒメ　天照大神
3．旦波　ヒコ(H)　タタ(T)　ス(S)　ミ(M)　チのウシ王　新羅王
4．壱(H)ヒ、拾(S)ソ、百(M)モ、千(T)チ、ヨロヅ億
5．ヒコ(H)　ネコ(N)　ミコ(M)　クコ(K)　シコ(S)
　日子　根子　卑ミコ　卑ミクコ　アシハラのシコネ

日韓両国古語は殆んど共通し、その変化している場合でも、深く考慮すると解明が可能である。

（大元医院）

## 55期・日々好会 思いつくままに

森本一郎（55期）

戦争も日増しにその熾烈さを加えていた昭和18年3月は、55期の卒業期であったが、幾人もの期友が卒業前に予科練生として入隊して行った。送られる者、送り出す者ともに非常事態に対処する気持ちに些かの変りもなかったが、予科練生を勧誘するその筋の熱気は次第に昂まり、遂に全員予科練へを唱えるに至っていた。このような状況のもとで、学年主任であり、進学部長でもあられた斉藤矯先生は、その筋と全校生徒を前にして、予科練を志望するのも国に報ゆる道であろうが、陸士や海兵はもとより、自然科学系などへの進学も極めて重要であることを十分に認識し、各自の適性をも考え合わせて受験に万全を期すようにと述べられた。さらに、最近は奨学金制度が整備されてきているので、如何なる境遇にあっても断念せず最善を尽くすようにと付け加えられた。あの壇上のお姿は極めて印象的であったが、55期生を卒業させてからの先生は、その翌年には安積を去られた。

卒業・進学、終戦、戦後の大混乱など、激動の10年を経て開催された55期会に、ご壮健な斉藤先生をお迎えできたことは望外の喜びであり、加えて“55期・日々好会”の名称を与えてい

Fashion is Passion

郡山 三東スーツ 株式会社

本社・工場／郡山市大槻町土瓜45番地☎(0249)51-0206㈹
本社工場／郡山市赤木町24番3号☎(0249)22-3605㈹

取締役会長　佐藤栄佐久　（71期）
代表取締役専務　佐藤　祐二　（74期）

ただけたことは記念すべきことであった。爾来、10年余に亘って健全な日々好会の発展にご尽力下さったが、昭和42年にご逝去なされたことは誠に淋しい限りで、惜しみても余りあることであった。我が身を顧みず毅然として進学指導をなされた先生のお姿を追想して、教育者の原点を伺い得たことは、55期・日々好会にとって極めて幸せなことであった。

現在、55期・日々好会の総会は、紅葉の美しい頃に、地元郡山方面で開催されるが、東京や仙台などからも多数参加し、盛大に行われている。また、東京日々好会も月例会を重点に活動し、情報交換を建前に、互いの健康を祝い合っている。数年前に30周年を記念して数々の行事を行ってきたが、その一貫としての意味もあって、“日々好会の歌”なども制作してきている。

“五十鈴湖畔も　桑野路も　時は流れて　遙かなり　戦中戦後を　生き抜いて　永遠に変らぬ　熱き血よ……”

歌の一部であるが、全曲を東京桑野会総会の折に椿山荘のステージで発表している。作詩、作曲は55期の菊地、青山の両君によるものである。作詩の菊地貞三君は、中学１年時に国民学校の歌に応募し、見事に入選を果しているほか、最近では第１回土井晩翠賞なども受賞している。作曲の青山八郎君は、中学１年を安積に学んだ後、上京して音楽の道一筋に勉学精進し、すばらしいメロディーを世に送り続けている。両君によるこの力作は、戦中戦後を生きて来た期友の心魂に振れ、心情を余すことなく織り込んでいるものであって、期友が愛唱しているゆえんがここにある。入学時の期友200名による大合唱が望ましかったが、戦死者14名を含む54名の得難い仲間を失ったことは誠に痛恨の極みであって、心から哀悼の意を表してやまない。

東京桑野会が沢田会長のもとに、母校百年祭に引続いて、極めてなごやかに発展していることは誠に喜ばしいことであって、われらが55期・日々好会もあやかるべく努力している。

(元科学技術庁金属材料研究所研究部長)

## 『時の流れ』

**加藤修二（67期）**

安積の３年間は私の人生にとって生涯忘れることの出来ない貴重な青春の体験であった。クラスメートは何時まで経っても若い。何時でも会えば青春に戻れる。

卒業と同時に社会人となって、しばらくして雲母とゆう商品を取り扱う部署に配属となりインドと係わりを持つこととなった。聖なる河ガンガ（ガンジス川)、その聖なる流れに身を清め、敬虔な祈りを捧げるインド人。ムガール朝時代にシャー・ジャハーン皇帝が妃のために作ったタージ・マハールは、絵ハガキで拝見してるものの、現地を訪れる人々を感動の極致に誘う。インドは、言語も民族文化も宗教も、また、人々の生活も多種多様である。食べ物もカレーを食べる国民と言われているが、ほとんどの人は、スパイスを沢山使い、穀物と野菜だけで肉や魚は食べない。一般大衆は大変に貧しく電気の無い生活をしている人が多い、が、一部の金持ちは大変贅沢な暮らしをしている。三十年前訪問した時と現在とほとんど変わりがない。簡単にインドの国を説明すると以上のようになる。

そのインドに仕事の関係で二十数回出張した。電気の絶縁に使用される雲母と呼ばれる鉱産物の買い付けが主な仕事である。雲母は、マダガスカル、スリランカ、アフリカ、ソ連、中国、カナダ、アメリカ、ブラジル、アルゼンチンなど世界の各地で産出するが、商業ベースでは、その約70％がインド品である。

戦後、電源開発が盛んな頃は水力発電所の発電機の絶縁物として最も大切な材料であった。そして、家庭電器の発熱体の絶縁基材として、電気釜、電気アイロン、トースター、ジャーポットなどに使用されている。また、ラジオやテレビなどの真空管にも使われた。

最近は、科学技術の発達により新素材に取って代わられたものもあるが、電気がある限り絶縁物として雲母は、無くなることはないが、年々少しずつ置き換えられていく事は淋しいかぎりである。

私が、安積を卒業したのは昭和29年である。卒業と同時に上京したが、そのときは郡山駅を夜の11時頃の夜行列車に乗り上野駅に翌日の朝５時に着いた事を記憶している。東京では未だ食糧事情はかなり悪くて、下宿での食事はコッペパンにジャムだけか、又は外米と言って細長い米で少し匂いのあるものに味噌汁と漬物のみの食事が多かった。

現在は、飽食の時代と言われており


企業のリクルーティング・教育・販促ＰＲビデオの制作
教育研修の企画制作は当社にご用命下さい。
経験豊富なスタッフが対応致します。

株式会社リュウコーポレーション
代表取締役　渡辺　隆一郎（81期）
〒151　東京都渋谷区初台 1-47-4　第２加藤ビル４階
☎ 03(3373)7590　FAX 03(3320)8218

食べることに関しては何の不自由も無いばかりか、東京では世界のどの国の食べ物も専門のレストランがある。

郡山と上野は新幹線でわずか1時間で行けるようになった。以前は、海外に行く場合には家族が羽田に見送りに来たが今は、OLが会社を早退して成田からヨーロッパに直行して旅行を楽しむ時代である。日本国の発展は目覚ましいものがある。今や、世界一の経済大国と言われている。我々は、今、どんなことでも可能ではないかと思いがちである。宇宙に民間人が飛べる時代で不可能な事はないと思いがちである。

安積を卒業して三十数年経った平成2年の年央に、クラスメートの森合信君が天国へ召された。五十四才の若さである。世の中がどんなに発展しても人間が時の流れを止めたり変えたりは出来ないのだろうか。彼の死に対し何の力にもなれなかった。

只只　冥福を祈るのみである。

（株式会社渡辺商行常務取締役）

## 常任幹事になった。そしてやめた
### 昭和40年(1965)→59年(1984)
### 石川照雄（64期）

39年前の昭和26年（1951年）。林芙美子さんが物故し、金閣寺が全焼し、講和条約締結した年の3月、福島県立安積高等学校を卒業し、上京した。

64期（高3期）卒である。

卒業して13年間は、名も無く貧しい「田舎っぺ」の私たちは、都会の荒波にもまれながらも青春を謳歌し、時に応じて集っていた。当時は同窓会というよりも「励まし会」といった無頼な「呑み会」であった。

昭和39年に、手をつくして37人に連絡がとれ、12月20日(日)、1,500円の会費で、金町の「松竹梅」で、第1回目の正式の会合をもった。

第2回目は、41年2月26日(土)・銀座「食道園」で開催、41名に連絡がとれ14人の出席者をみた。この会で、会の名称を、母校の校舎のあった旧地名「桑野」と高校3期卒の「三」を結びあわせ『三桑会』と私が命名した。

その後、郡山市の同窓会名として46年10月から「三桑会」と名乗り、私たちは頭に「東京」をつけたし、『東京三桑』と呼ぶことにしたのだが、分家が先に名乗り、本家があとから追従して名乗るという珍らしい現象になってしまった。

本校の学籍名簿によると64期の卒業生は294人となっているが、大多数は郡山近くで活躍中であるが、物故者もかなり多く30余名となった。

「東京三桑会」は、平成2年12月1日現在で96名の消息をつかんでいる。

遠藤四郎、熊田充臣、西山和示、松山省三、渡辺弘司の諸兄はご逝去した。

その後、42年11月、43年11月、44年1月、45年12月、46年11月、47年休み、48年11月、49年休み、50年10月、51、52、53年休み、55年2月、5月、56年1月、57年6月、58年11月、59年休み、60年3月、61年休み、62年10月、63年休み、64年（元）12月、2年10月とつづく。会場も、八芳園、ダイヤモンドホテル、治作、郵貯会館、ニューオータニホテル、新田中、パレスホテル、イルド東京、四季を利用した。

さて、東京桑野会とのかかわりあいをみてみよう。

39年12月9日。17時。銀座の交詢社（総会費1,500円、年会費800円）に出席したのがはじめてである。

東京三桑会の第1回目の会合の招集のために努力していた折、同期生たちが「1度、顔出してみねがえ〜」「みんなで顔出してみっぺえ〜」ということで、在原友栄、石川照雄、太田徳二、大槻吾市、長谷部照夫（敬称略、以下同）が出席した。

会長は23年から35年までの初代会長永戸政治（故）さんにつづいて、2代目は三沢敬義さん（26期卒、当時は東大名誉教授、故人）であった。出席者122人と盛況ではあったが「老人会」といった印象を強烈に感じたものであった。33歳の冬である。

平成元年度の役員スタッフのなかで39年の頃に会員名簿にのっていた人は存外と少ない。（以下つづく）

(㈱東京クリエイティブセンター代表取締役)

## 私のダブルワーク人生
### 熊田仁一（74期）

早いもので卒業以来30年が経過しようとしている。でもこの30年は私にとって充実したアッという間の出来事であったように思われる。

安積高校時代の私は、何のとりえもないごく普通の平均的な高校生であった。在学中の3年間はコーラス部に所属し、毎日大きな声で唱い続けること


有利さで選ぶなら

中期国債ファンド

かい　せい
偕成證券

1カ月複利の効果で
いつでも一番有利

本社　東京都中央区日本橋兜町13—2
☎（3666）1431（大代表）

取締役人事部長　近内靖夫（第69期）

が唯一の楽しみであった。今でこそ音楽は大衆化し若者の心をとらえる魅力を持ち得ているが、当時は髭面の男達が唱っている姿は女性的であり、あまり恰好の良いものではなかった。でも好きなものはしかたがない。私の生きがいの一つであり、高校時代のなつかしい思い出となっている。

人間というのもは、年とともに丸くなり、ファイティングスピリットは衰えてくるものといわれているが、私の場合は逆で年々それが増幅していくようである。その矛先が平均的日本人の向うところに集中していれば、それなりの富と地位を得ていたかも知れないが、私の場合は並の人間があまり好まないこと、むしろいやがることに熱中するから始末が悪い。

社会人になってからは、ワンマン社長と対決、日本橋のど真ん中で赤旗をふり、家にあっては公害反対の住民運動にあけくれ、あげくのはてに市議選に立候補、まもなく3期12年目を迎えようとしている。この間ハラハラドキドキの人生を送り、妻には迷惑のかけ通しである。

わが国の場合、地方自治体の議員だけでは専業として一家をささえることはでき得ない。したがって、議会の休会中はお茶の水の事務所に通い、理工学書の編集・校正を業務とする零細企業の役員と兼業の「ダブルワーク人生」を送っている。

地方議会も国会と同様、権謀術策の世界である。「経済は一流、政治は三流」といわれる言葉通りの状況である。市議会議員という市民生活に直結した位置にある場合は、市長与党に属していれば、よほどのことがないかぎり落選することはなく、安定した地位が保証される。しかし、私の場合は「まあいいじゃないか」という政治家特有のファジー感覚にはなれない性分だから市長と対決し大論争になることもしばしばである。だから、政治家として大成することはむずかしいかも知れない。

わが道を行く！そこにこそ私の存在意義があるのではないだろうか。ただの一市民であることにこだわり続け、どこの政党にも属せず、常に正義感を忘れず、そんな一地方政治家であり続けるために、「ダブルワーク人生」を歩き続けたいと思う。

今年の4月は改選時期である。新たな決意でトップ当選をめざし四選目に挑戦する。

安積健児ここにありの気力はいつまでも持ち続けたいと思いつつ……。

(千葉県流山市市議会議員・
㈱あるふぁ企画取締役)

## 映像稼業

**渡邊隆一郎（81期）**

安積を出て23年が経過しました。現在私は、企業向けの採用、教育、広報、販促ビデオやTV番組、CM、イベント等を企画・制作する会社を経営しています。毎年春先は、新卒学生向け採用ビデオの制作に追われる毎日が続いています。

高校時代より映像の世界で生きていきたいと考えていた私は、土曜日等は授業が終ると、吹奏楽部の練習もそっちのけで、日劇や郡映に駆けつけました。スクリーンに写る光と影はたとえようもなく美しく、自分もいつか制作にタッチしたいとの思いが日々ふくらんでいきました。

学生時代は明けても暮れても映画、映画で、邦洋画を問わず年間350本ぐらいは見ていたと思います。そんな時、郡山を舞台にした東宝映画「百万人の大合唱」（須川栄三監督）の助監督として参加させて貰うことになりました。出身地ということもあって、又スタッフの中では重宝がられ、俳優の若林豪や酒井和歌子等に郡山弁の指導をまかせられたり、ロケ交渉に行ったりで、映画制作の楽しさにすっかり魅了されてしまいました。この映画は、郡山が“東北のシカゴ”と言われていたのを、市民が音楽の力で“東北のウィーン”に変えていこうとする感動的な物語でした。主役の若林豪が高校教師という設定でしたので、安積がロケ地に選ばれ、旧本館や吹奏楽部のボロボロの練習場、部の後輩達も画面に登場してくれました。完成試写後、何度となくこの映画を見ましたが、本館が写るたび、何か晴れがましく感じたものでした。活動屋は三日やったらやめられないと申します。そんなことがきっかけとなって映画界に入ったのです。

その後、多くの人達と仕事をし、映画の仕事の充実を味わっておりました。しかし、その頃ビデオがカセットで登場。技術の進歩は驚くばかりです。映画人は拒否反応を起こしましたが、新しいコミュニケーション手段としてのビデオに大いに興味をそそられた私は、周囲の映画人より一足早くビデオ作りを始めました。それも企業向けの教育

Restaurant & Pub
Caravan Sérail
レストラン&パブ キャラバンサライ

2つのキャラクターを使い分ける現代人のプレイスポット。
選びぬかれた山海の幸と洗練された味、
ステータスを満足させるウィスキーとコニャックの数々、
あなただけのオアシスです。
是非一度、お越し下さい。

株式会社スズシン　鈴木信治（81期）
〒242　神奈川県大和市南林間2-10-5クルク林間3F
TEL 0462-77-0222

ビデオや企業紹介ビデオです。

これまで閉鎖的な劇の世界しか知らなかった私は、ビジネス最前線を目の当りにして、新たにファイトが沸いたのです。私がリクルートで演出した新入社員教育シリーズ「応対応接のマナー（女子編）」は昭和56年ロンドンで開かれた第1回国際ビデオフェスティバルでグランプリと教育部門賞を受賞。ビデオが教育のツールとして認知されたことは、以後の企業ビデオの普及に少なからず貢献したと自負しています。

その後、独立して、企業向けを中心とした映像会社を設立、現在に至っております。

21世紀に向って、増々映像の需要は拡がっていきます。そして映像抜きには何も語れない時代がやってくるでしょう。これからも映像にこだわり続け、共に歩んでいきたいと思っています。

（㈱リュウコーポレーション代表）

## 汽車通学の思い出

**青山掌三（68期）**

安高へは本宮からの汽車通学でした。

毎朝、スニーカーならず高下駄でカランコロンと鳴らしての1時間半の通学でした。都会の様なラッシュアワーではなく、SL列車ののんびりしたものでした。

前の車輛は安女の生徒、後は安高生といった暗黙のきまりがあったようです。

雪を頂いた安達太良山を車窓から眺めながら赤尾の“豆単”を暗記したものです。

小野圭の英語、岩切の解析、吉岡の世界史、塚本の漢文、といったところが当時の参考書のベストセラーでした。

朝食が早かったので11時頃になると腹ペコで昼休みに食べる“あげパン”が唯一の楽しみで、かつ、ぜいたくでした。安高まではバス便はありましたが、帰りは勿論歩きでした。高下駄は1ケ月ともちませんでした。食べ物は今の様なグルメ時代では考えられない川魚、山菜が中心で、今風に言えば自然食品ばかりでした。公害もなく、自然そのものの中で過した安高時代を今でも懐かしく思い出します。今もって足腰が丈夫なのも安高時代の歩きと自然食品のおかげだと思っております。

先生方も個性派が多く、解析の稲田先生、英語の郷先生、堀内先生、世界史の竹花先生、人文地理の椎名先生等多士済済で時間の経つのも忘れさせる名講義ばかりでした。今でも時折キルナ、ゲリバラ、ダンネモラ（スウェーデンの鉱山）と口ぐせの様に出るので、家族の皆が笑っております。椎名先生の早口でかつ独特なリズムで講義する正しく音楽の様な語りかけが心地よい記憶として残っているからです。皆多感な頃で知的好奇心を十二分に満足させて頂きました。唯一つ残念な事は高校野球で甲子園へもう一歩というところで代表校になれなかった事（当時は県大会で優勝してもそのあと東北大会があり、決勝で敗れた）。いつの日にか是非甲子園でチャカホイ節をPRして欲しいものです。

東京で時々安高の同窓会を催して旧交を温めています。皆、息子に背丈は追い越されているようですが、いたって元気そのもの。質実剛健の安高魂は今もって健在で各界で活躍していることは喜ばしい限りです。

（朝日生命法人営業部長）

## ゴッホの師 モンティセリとの出会い

**谷本浤朗（63期）**

人生は出会いです。人と人との出会い、場所との出会い、物との出会い、一つ一つの出会いがとても楽しいものです。五十の手習いで始めた油絵との出会いは私の人生をとても大きく変えました。

五十才になって始めた油絵は何故か私を夢中にさせました。毎日毎日描いて、一年の間に100枚以上の油絵を描きました。一年程で大きな展覧会にも入選し、大洋会の会員にもなりました。

絵を始めてから3年後にこれ又全く偶然にモンティセリの一枚の小さな絵と出会い、私はすっかりモンティセリの“とりこ”になってしまいました。モンティセリが生まれ、そして死んだマルセイユに何度も行きました。100年もの間見捨てられていたモンティセリのお墓も探しだして、すっかり壊れていたのをきれいにして牧師さんに祈禱して頂きました。マルセイユの新聞やラジオに私のことが大きく報道されました。

モンティセリを研究すればする程、モンティセリの偉大さが分かりました。モンティセリはセザンヌとゴッホの師です。ゴッホは、弟テオへの手紙のなかで100回以上もモンティセリのことを書いています。ゴッホはテオに「ぼ

五冷

五十嵐冷蔵株式会社

（冷蔵・冷凍食品・低温運輸の総合エンタープライズ）

FROZEN FOOD

〒108 東京都港区芝浦2－10－5
TEL 03(3451)1111（大代表）
テレックス 3242-4442
東京桑野会会員　専務取締役　吉田弘俊（第52期）

くは実際モンティセリの仕事を続けているんだと強く思うことがよくあるよ。」と書いていますし、オーリエという評論家に始めて褒められた時、そのお礼状の中で「本当はモンティセリのことを褒めるべきだと思う。」と書いてあります。

更にモンティセリは印象派、抽象画、更にはフォービズムにも、とても大きな影響を与えています。若し近代絵画の祖がたった一人だけだとすれば、モンティセリこそその人だと思うのです。だからこそ世界中の美術館にモンティセリの絵は展示されているのです。

然し日本ではモンティセリは全く知られていません。日本では白樺派が紹介した印象派を中心とする絵画のみが高い評価を受けています。私は日本中にモンティセリを知らせることを私のライフワークと考え、「モンティセリ友の会」を創立し桑野会の会員を始め多くの友人に入会して頂きました。その方々に助けられて一昨年11月10日には一日だけ明治記念館でモンティセリの絵の展覧会を行ない高い評価を得ました。又ビルの4階をサロンにしてモンティセリの絵を飾り毎月会合を持っています。酒と女と歌が好きだったモンティセリを語り合い、立派なゲストも迎え、その会合は楽しく有意義なものです。今の私の目標は、第一にモンティセリに関する本を出版すること、第二にモンティセリの美術館を作ることは難しいでしょうが何とか折角の収集絵画を霧散させずに保存することです。

今年は年男ですので更に前進したいと思っていますが、金融状勢その他大変な困難もありますので、今后とも諸先輩の積極的応援を頂けたら有難いと思っています。

（税理士、谷本会計事務所所長）

## 同窓会に出席して

**渡辺　茂（81期）**

東京桑野会に加えていただいて、まだ5年にしかなりません。それまでは消息不明の状態でいたのです。そんな不義理な私の行方を八方手をつくして探索してくれた同窓生がおりまして、同窓会の通知が届きました。拾う神に出会ったという心境でした。おかげさまで、2度の同窓会に出席することができました。

'88年8月14日磐梯熱海温泉において、81期安積桑野会が開催されました。受付までは不義理の負い目もあるし、顔と名前を一致させることができるかとの不安もあるしで緊張しましたが、懐かしき顔を見た瞬間にそんなものは吹き飛んでしまいました。外見の変化は即意識の外、20年の歳月を一挙に埋めて、高校生に舞い戻ったような気持ちになるものです。先生のスピーチは昔日の授業を蘇らせ、何と個性的な先生方の教えを受けることができたのだとの、我が身の幸運を再認識しました。そして校歌、応援歌、2番3番は残念ながら歌詞カードの助けを借りねばなりませんでした。その後各部屋におさまってからは、かつての桑野寮の夜・修学旅行の夜を彷彿とさせる、いや、酒の応援がある分あの夜以上の盛り上がりでした。翌日安高を団体で訪問し、あいにく休館中であったため旧本館に入ることはできませんでしたが、学校側の好意により3年の時に学んだ当時のままの教室に入れていただけ、なつかしの席に座ってかの輝かしき日々を回顧できました。感謝感激です。

'90年6月9日午後6時より郡山市内において、安原先生安積高校校長就任を祝う81期9組同級会が開催され、北は八戸から南は京都まで28人が出席するという盛況でした。先生の人徳の賜でしょう。先の同窓会の際は病気御療養中のため御出席なされておりませんでしたので、お会いできた喜びは格別なものがありました。安原滋先生は昭和40年より6年間安積で教鞭を執られ、私どもは2・3年の学級を担任していただき、数学も担任していただきました。とても温情あふれる指導でしたが、2題だけ出題の単元テストでは何度零点に泣いたことか。今ではそれも、またとりわけ桑野寮での合宿と体育祭の級旗製作は、私のかけがえのない青春の思い出です。会は先生の人柄を反映して秩序あるほのぼのとしたものになり、先生は各席を廻られ、全員の現況を尋ねて下さいました。「現在の安積は就任2ケ月で2度の出産祝いを渡すことのできるような若々しいスタッフを抱えているゆえ期待してほしい。」とのお話が耳に残っています。そして最後はやはり盛り上がります。校歌、凱歌、紫の旗ゆく所。アンコール、アンコール。旧制高校寮歌祭の感動を我今ここに体験せりの夜でした。

同窓会に出席して、今さらながら安積に在学できた有難さが身にしみ、師の恩が胸をうちます。そして幹事の方

ご宴会、ご会合、おくつろぎやお待ち合わせに…

RESTAURANT PUB
Windsor

小田急南林間駅前　横浜銀行地階
大和市南林間2－11－19　TEL 0462－74－8001

81期　鈴　木　信　治

の企画・運営の御苦労に頭が下がります。厚意に甘えるばかりの我が身を恥じつつ。

（学習塾経営）

## 日日好会と私

**鶴見俊一（55期）**

昭和29年7月17日、真昼の太陽が照りつける暑いさ中を、三三五五と東京駅八重洲口の国鉄駅待合室に集ったのが、私達、安積55期在京メンバーの最初のつどいであった。

安積中学卒業後、それぞれが空襲、終戦、食料難といった苦難な時代を生きのびて、11年ぶりに再会したのであるから、一目でそれとわかるものもいたが、隣同志ソファーに座っていても、お互いに全く気付かず、中には恩師の先生と間違えられる者も出て、大笑いとなったのである。

その後は、毎年一回椿山荘に集合、恩師の先生をご招待して旧交を暖めた。『日日好会』の名は、その時ご出席をいただいた55期の学年主任をしておられた齋藤矯先生が、私達在京の55期会のために命名して下さったものである。碧巌録の中の『日日是好日』からとられたものだと伺っている。

昭和30年代は、日本経済が急進展し、これに合わせて、横浜市でも、積極的に海岸を埋め立て、工場誘致を行ってきた。当時は工事現場に休日はなく、私の上司は、「現場に土曜、日曜はない。土方は雨が降ったら休みだ。」という現今では考えられない猛烈局長であったから、私も、昼は現場、夜は設計という毎日が多かった。そのため日日好会への出席は、ポツンポツンと、思い出したように少なかった。

私の出席率が良くなったのは、昭和48年、港湾局長に就任してからである。多忙ではあったが、自分の予定を自分で調整することができるようになったからである。

昭和50年頃からは、㈱極洋の人事部長をしていた結城洸君のお骨折で、日日好会は毎月一回極洋の社員寮で開催されるようになり、毎回10～15名の期友が出席するようになった。年一回の椿山荘の総会では恩師の先生方をお招きする関係上、多数の期友に出席してもらいたいと、幹事長の日向国光君は一人30分も電話して出席方を要請したものである。彼の長電話は有名で、私の家でも、娘を相手に乗馬の勧誘などをながながと話して娘を笑わせた。

日向君といえば、彼のカラオケ好きも有名であった。彼は殆どアルコール類はだめだったが、仕事上のつき合いからか、いつのまにかカラオケが上手になった。初めの頃は伴奏に合わなかったりしたが、自分で低音の魅力というくらい、かなり良い声だった。そして次々とレパートリーを拡げた。もともとカラオケは誰にでも歌えるように、伴奏の音程を下げてある。彼のようなバスの音質の者にとっては極めて心持ちよかったに違いない。定例の日日好会が閉会する頃になると、「おい、横浜方面は集合、これから銀座へ行くぞ。」たまたま「明朝は会議があるから」などと断わると、「鶴見、お前はつき合いが悪いぞ。」などと言って、大抵は連れ出された。当時の常連は、日向君、柳川喜代吉君、その他数名で、カラオケの帰りに腹がへったといっては、新橋駅前の屋台でラーメンをすすり、東海道線の終電に間に合わせたのである。

「あと何回こんな楽しい会が持てるか。」と言っていた、その日向君が、昭和59年の暮、一番初めに急逝してしまった。

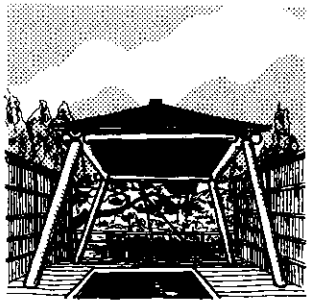
このような他愛のないつき合いであったが、毎月ごと10人以上も出席して、日日好会が長続きしてきたのは、何といっても幹事長の日向君、結城君はじめ、良い期友に恵まれたからであり、殊に、毎回連絡を取って私達の面倒をみてくれた結城君の並々ならぬご尽力には、一同深く感謝している次第である。その上、メンバーは多士済済である。教授、医師、公務員、会社役員、詩人、画家、作曲家などなど、日日好会は情報交換の場でもあり、お互いの仕事の勉強の場（あるいは息抜きの場）にもなっていた。最近は益々集りが良くなってきた。そして『日日好会の歌』も誕生した。菊地貞三君作詩、青山八郎君作曲によるものである。

故、日向君の言葉を借りれば、「これからは、減ることがあっても増えることはない」日日好会の会員も、今年は、各人66才を迎える筈である。お互いに励まし合って元気に頑張ってゆきたいと願っている。

（元横浜市技監、現東亜建設工業㈱顧問）

芳賀仁美 画


ふるさとへの
ご旅行ご出張に
ぜひご利用ください。



好評の本造り露天風呂をお楽しみください
■政府登録国際観光旅館■日本観光旅館連盟会員
磐梯熱海温泉
紅葉館
〒969-21 福島県郡山市熱海町熱海4-39（磐梯熱海駅前） ☎0249-84-2130 村田英男（75期）

# 安高剣道部の思い出

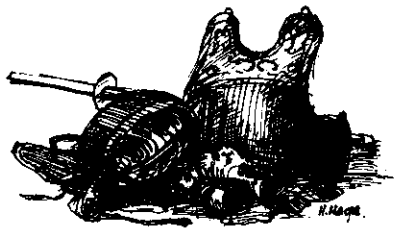
三瓶巖一（92期）

私は安高時代に剣道部に在籍しておりました。会報の母校だよりを見ていたら、後輩たちが大変活躍している様子であり、昔のことが懐かしく思い出されました。そこで、この場をかりて安高剣道部時代の思い出を書き綴ってみようと思います。

私は小学校の頃より街の剣道場に通い、中学校でも剣道部に入っていたのですが、高校では特に剣道を続けるつもりはありませんでした。ところが、中学時代の剣道部の先輩に廊下で偶然出会い、「おまえ、当然剣道部に入るよな」と釘をさされ、先輩への義理から剣道部の門を叩きました。果して入部した私を待っていたものは、ボロボロの学生服と腰に手拭いと言うバンカラを地でいく菅野さんを始めとする個性豊かな先輩たちと熱血漢の吉崎先生でありました。結局私は、剣道が好きだったからと言うよりはむしろ、この人たちの魅力に引かれ三年間剣道部を続けてしまいました。

剣道部時代の思い出と言うとなんと言ってもつらかった練習が真っ先に思い浮かびます。私が三年生になる時にインターハイが福島県で開催されることが決まっていたこともあり、二年生の後半から三年生にかけての練習は質、量ともに密度の濃いものでした。毎日二時間半の練習の他にも、毎週日曜日には東北、関東の高校に遠征試合に出かけて行きましたし、新聞社主催の剣道大会に参加するために秋田まで出向いたこともありました。でも、私がつらいと感じた日々の練習などは実はものの数ではないのだと思い知ったのは、筑波大学の春合宿に参加した時のことでした。吉崎先生が東京教育大学のOBと言うことで、半ば強制的にこの合宿に参加させられました。合宿の練習は早朝六時頃より太鼓の音とともに開始され、想像を絶する厳しさでした。剣道では、たいていの場合、一列になっている先生、先輩たちのところに並んで稽古を受けるのですが、この合宿ではこれが何列にもなって行われ、従って一度稽古が済んだからといって休むことも許されず、エンドレスに稽古が続けられました。とにかく息のつく暇がなく、心臓が張り裂けるのではないかと思いました。稽古内容も何でもありのとても剣道とは思えないもので、中でも大学入学を目前にした新一年生とさらに二年生に対するしごきは壮絶で、道場内のあちこちに気絶している人がいる程でした。もちろん高校生に対しては手加減をしてくれるのですが、このとき私は運悪く自分の高校と名前を明示するものを持っていくのを忘れてしまい、大学生と間違えられてしごかれてしまいました。私が、大学のOBとおぼしき人の喉突きと足技（剣道には足技はありません）に耐えかねてうずくまると、「どうした、何か言ってみろ」と言うので、「私は高校生です」と答えると、「それは申し訳なかった。でも、いい稽古になったろう」とのたまいました。何がいい稽古なのかと思いましたが、とにかく解放されてほっとしました。これ以後は自分が高校生であることを相手に告げてから稽古（？）をつけてもらいました。筑波大学での経験はその後の剣道の上達に役立ったかどうかはわかりませんが、今でもたまにこの時の夢を見て、うなされることがあります。

それから思い出と言うと、やはり最後の県大会でしょう。私は団体戦において中堅と言う比較的大役を仰せつかりました。厳しかった練習の甲斐もあり、われわれは決勝リーグまで駒を進めました。決勝リーグは三チームで行われ、この年のインターハイが福島県で開催されることから、この内の準優勝までがインターハイに出場できることになっていました。安高以外で勝ち残ったのは、予想通り一年の時からライバルであった湯本高校と磐城高校でした。試合前の正直な気持ちでは、湯本には勝てないかもしれないが、磐城には勝てるだろうと思っていました。しかし結果は両校に僅差で破れ、インターハイ出場の夢は無惨にも打ち砕かれてしまいました。この時は流石に悔し涙が止まりませんでした。と同時、自分の時間とお金を割いて親身になって指導してくれた吉崎先生に申し訳ないことをしたと思いました。



芳賀仁美 画


コンバートシステム完備！14メーカーのフロッピ（ワープロ,パソコン）の変換が可能です。

フロッピ入稿で自費出版！

※料金、注文方法についてはお気軽に問い合わせ下さい。

企画・編集・デザイン・版下・印刷・製本／チラシ・カタログ・各種出版印刷物

ワープロ入力・電算写植・メディア変換・名簿管理

トータルプリントアトハイサー 株式会社アテネ社

〒101 東京都千代田区三崎町2-12-9 三崎町ビル

TEL 03(3239)7466㈹ FAX 03(3239)7468

弊社は「東京桑野会会報」を第5号より製作しております。

つらかった練習や負けた試合も今となっては良い思い出であり、貴重な体験でした。特に最後の試合で経験した極限の緊張感は今後二度と味わうことの出来ないであろう種類のものでした。私は現在、大学で分子生物学の研究をしておりますが、この学問は実験科学であり、半分以上が肉体労働みたいなものですので、高校時代に剣道で鍛えた体力と集中力が今の私を支えているような気がします。(東京大学理学部)

## 単身赴任地で勇気づけられた出来事

佐藤　紀也（69期）

サラリーマンの社会で、転勤の問題は絶対に避けては通れない道であります。年齢も40代半ば以上になりますと、子供の学校教育やその他諸々の事情から単身赴任とならざるをえないケースが多くなります。

私の場合、地方へ行くことはもうこれからはないと思っていましたが、昭和59年３月に47才半ばにして、東京本社からいまだかって足を踏んだことのない福岡支店への転勤辞令を受け、その当時かなりのショックを受けたことを覚えています。それと云いますのも、単身赴任体験した諸先輩から家族と離れての暗い侘びしい苦労話を、酒席等で何気なく聞いていたことが現実に突然我が身に降りかかってきたからです。その後色々と心の葛藤はありましたが、何はともあれ現地へ着任致しました。

やがて一段落してから私は、暇を見つけては努めて心の健康にと、九州一円の名所旧跡等を時間の許すかぎり徘徊しました。そんな中で、本州からの観光客にはあまり縁のない小さな観光地ですが、私のような単身赴任者には大きな心の支えとなり励みとなった歴史上の名所に遭遇しました。

そこというのは、私の住んでいた寮から約15分位歩くと福岡市の姪浜という港があり、そこから渡船15分位の能古島という周囲12km位の博多湾に浮ぶ小島のことです。ここは荒漠たる岡と断崖絶壁の多いところでありますが、島の北西側からは遠く玄界灘のかなたに小呂島、桐島、ときには壱岐を望むことができ、その雄大な風景はすばらしい眺望であります。

しかし、この島には単身赴任者にとっては（家族団欒の生活者には分らない）身につまされる悲しい話がありました。

時は1300年の昔、奈良時代にさかのぼりますが、日本は新羅（朝鮮半島）に出兵し、白村江という所で大敗を喫し、そこで天智天皇は北九州一帯に「防人」を置き朝鮮からの来襲に備えました。その場所として明らかなのは、日本で唯一この能古島の世良崎にあります。

防人には、屈強と云われた何故か東国の20才から60才の正丁3,000人があてられ、３年間の軍役をしいられたそうです。当時の交通機関から考えますと、気の遠くなるような地への勤めであったと思われます。

防人達の仕事は、この島の断崖絶壁から日夜海外の警備にあたり、狼煙によってしかるべき所への賢急連絡の役目をしたとのことです。さきに述べたように、彼等は遠く郷里に家族をおいての今様単身赴任であり、火長以下11人をもって一火とする防人班で構成され、一火ごとに小さい釜を支給され、自炊の侘しい生活をつづけなければならなかったそうです。この荒漠たる草深い能古島のとある岡の片隅に、故郷を思い妻や子をしのびやがて帰る日を待ち望んだであろう心境を歌った防人の万葉歌碑が、玄界灘を見渡す静かな所に建ててあります。

私はそこにたたずみ、厳しい環境のもと日本国の防衛のため九州の最前線で働いた遠い昔日の防人達に感謝の念を抱くと同時に、何か心の底から湧き出る熱きものを感じ、強くたくましく生きるための勇気と情熱を与えられた思いでした。

最後に、能古島の万葉歌碑に刻まれた歌を記します。

沖の鳥　鴨　といふ船の還り来ば
（枕言葉　船の名）
世良　の崎守　早く告げよ
（能古島の地名）
（防人の妻の歌）

からとまり　能許の浦波立たぬ日は
（博多湾）
あれども家に恋ひぬ日はなし
（防人の歌）

（国際証券㈱勤務）

## 東京・桑野寮のこと

津野　喜三次（55期）

終戦の年の東京大空襲で焼失するまで、東京・中野の地に、大学、専門学校に学ぶ安積中出身者のための桑野寮があった。青春の一頁をそこに過ごした者には終生忘れ得ぬ思い出がある。

空襲警報のサイレンが鳴り響いた。時に昭和20年５月24日午後10時過ぎ。聞き慣れた音ではあったが、これが我が桑野寮の終焉の日になろうとは、そしてバアさん（17年間、寮生の世話をしてくれた石塚トヨさん）の最後の日となろうとは誰が予知したろうか。

既に新宿方面には火の手があがっている。頭上に迫るB29の爆音が刻々と大きくなるのを聞いた。住所、氏名、血液型を書いた布を胸に縫い付け、防空頭布や鉄かぶとに身を固め、前庭の防空壕に教科書や布団を入れる。この夜、初めて靴のまま畳にあがり屋内外を駆けまわった。火の手は近くに迫り、ボーッとした明るさと熱気が周囲を覆いはじめる。

「今日はやられる…」という予感がした。最年長の桜井啓太郎氏（47期）に「バアさんを連れて人足先に広場へ避難してくれ」と言われ、私は寮の小さい手提げ金庫を左手に、バアさんを右手に引いて寮を離れた。

寮から40－50㍍、細い道を曲がって間もなく頭上に「ガガガガア」という焼夷弾の音が襲ってきた。

「危ない！」。バアさんの手を引いて軒下に走ろうとした。だが、その瞬

間、何が何やら分からなくなった。

気がつくと、私は道路脇にあった素堀りの防空壕の中に投げ飛ばされていた。眼をこすると小豆大の土がボロボロと落ちた。周囲に人影はなかった。道路にバアさんがうつ伏せに倒れていた。そばに焼夷弾の大きな筒が鋭い割れ目をみせて転がっていた。

既にこと切れているピクともしない硬さがあった。「あっ、だめだ」と思った。だが、遺体であろうとも広場まで背負って行こうと思い、抱き起こそうとした。

そのとき初めて、首がないのに気付いた。

何処をどう通ったか分からない。広場に着いてしゃがみこみ、まだB29が飛び交うバラ色の空と燃え続ける真っ赤な軒並みを、うつろに眺めていた。

やがて、寮の人々が私を探し当ててくれた。寮の最後を見届け、バケツで頭から水をかぶりながら逃げてきたという。「バアさんはどうした」と聞かれても、口がきけなかった。

渡部宏氏（54期）と伊藤克俊氏（55期）が、火の収まるのを待って焼け落ちた寮の防空壕に遺体を仮埋葬した。

バアさんの遺体はその後、新井薬師寺へ移された。

寮の土地は、終戦後の混乱期に借地権を失い、後に区画整理されて路線もすっかり変わってしまった。一新されたその住宅地区に、寮のあった場所を確認するのも今は困難である。

※55期生が卒業40周年を記念して編集した『流るる雲』から転載。なお寮母・石塚さんのことは津野さんの投書から、平成2年9月1日の朝日新聞で紹介されました。（不動産業・郡山在住）

## 長期展望に立った郡山の都市づくりのために

**熊谷和年（86期）**

東京桑野会の皆さん、初めまして、86期の熊谷です。常任幹事の坂本浩一君より原稿依頼があり、喜んで寄稿させて頂きます。

86期生は今年37歳を迎えます。地元の同期生はそれぞれ中堅クラスに育ち、各分野で精力的に活躍中です。

私も10年前は東京で駆け出しの新聞記者として地下鉄の路線を頭に叩き込み、無駄のない取材活動をしていましたが、たまに上京すると浦島太郎とおなじで東京は別世界になってしまいました。

現在、私は郡山本社の日本全薬工業㈱（動物用医薬品製造メーカー）の広報室長として全国の畜産地帯を飛び回り、獣医師、酪農家、肉牛農家、養豚家向けの情報誌4誌を編集・発行しています。その取材活動は、例えば午後1時から鹿児島で和牛の座談会を主催する時には、羽田10時前後のジェットに乗らなくてはなりません。逆算していくと羽田・上野が50分として郡山は7時発の始発になります。上野着が8時24分。羽田までは50分あるから楽勝と思うがこれがとんだ大間違い。

上野で大ラッシュに巻き込まれ、せっかくの一張羅はヨレヨレ、セットした髪もバラバラになりながらも身動き取れず、東京駅でホット一息ついたかと思うと、今度はモノレールでクタクタ。最後は搭乗手続き窓口まで走って行き、やっとセーフというのが、私の出張の一コマです。

とても東京では住めないというのが、郡山で暮らしている私の実感。皆さん本当にご苦労様。

しかし、この問題も徐々に解消されつつあります。6月20日には新幹線が東京まで乗り入れされるし、平成5年には福島空港から一番機が飛び立ちます。

郡山は環首都圏の中核都市として最も条件が整備されているといえます。東北縦貫道に加え、常磐高速道、関越自動車道、そして現在建設中の磐越自動車道が完成すれば、高速交通トライアングルゾーンが形成され、しかも郡山は空港を含め最も利用度の高い都市になります。

この他にも豊富な水資源、広大な平野、そして質の高い労働力、これらもろもろの恵まれた条件を生かし切った、長期展望に立った街づくりが急務と考えます。

全薬に入社して9年。全国の地方都市を肌で感じてきた者として、痛切にその必要性を感じる毎日です。

そして東京でご活躍の桑野会の皆様には、未来の郡山発展のために是非とも側面からのご援助をお願いしたいとおもいます。

（日本全薬工業㈱広報室室長）

## 安積の編集者

**椎根　和（73期）**

昭和35年に安積高校を卒業した。そして早稲田大学第二商学部入学、上京。安積高校在学中は、下駄通学が常識だったので、校内でも裸足でスリッパも履かずペタペタ歩いていた。冬の間の冷たい木の廊下の感触がいまでも残っている。

当時戦後の日本の貧しい時代の最後だったような気がする。革靴もスニーカーも遠い時代だった。売店のバターつきコッペパンが御馳走に思えた。同級生たちの顔つきもバンカラ気分が少し漂っていた。暴力事件もいくつかあった。郡山という街がようやく都会的刺激を受けて、少しづつ近代的な町へ変化しはじめた頃である。

この前、ビデオで『童年往時』（侯孝賢監督）という台湾映画を見た。カンヌ映画祭でグランプリを獲得した傑作である。映画の時代的背景は、昭和30年代後半の台湾の地方都市で青春時代を送る一人の少年の日常生活をたんたんと描写した映画である。

この主人公の少年の日常生活、街並や家、横丁などが、昭和30年代前半の郡山の風景にあまりにも酷似しているのに驚嘆した。母親が縫ってくれた白いシャツ、イガグリ頭、ビー玉遊び、暗いことばかり起こる家庭、刃物をいつも用意しておいての喧嘩…。

私の少年時代をこっそり見ていて、それをい映画化したのではないか、と考えこみたくなるような内容である。もし将来、自分の棺になにかひとつ入れてもらうとしたらこのビデオがいいかな、とバカな事を考えたほどだ。

大学卒業後すぐに出版社に入り26年経過してしまったが、ずっと編集者稼業を続けている。現在、首都圏に住む若い女性向きの「Hanako」という週刊誌の編集をしている。月刊誌「婦人生活」からはじまって、週刊誌「平凡パンチ」、月2回刊の「anan」、日刊誌「日刊ゲンダイ」、隔週誌「POPEYE」、隔週誌「OLIVE」、週刊誌「週間平凡」の編集をやってきた。「Hanako」誌で8冊目の雑誌だ。編集者稼業をしていて、相当数の人々に会い取材してきたが、安積高校卒ということが判った人はわずか4名しかいなかった。

高山樗牛、久米正雄、中山義秀という有名な文人を先輩に持ち、なんとなく文芸系高校というイメージを持っていたが、マスコミ関係に進む卒業生は以外と少ない、というのが実感であった。東北人は編集稼業にむいている、というのが私の持論だが、最近の安積高校生はマスコミの方へ進まないらしい。

ここ20年間の秀れた編集者といえば、情報誌「ぴあ」を創刊し、大成功させた矢内廣氏がいる。彼は、たしか磐城高校出身のはずである。安積高校出身でないのが、妙に残念である。

この残念という感情のなかに、私の安積に対する“愛校心”があるのかもしれない。

(㈱マガジンハウス　Hanako編集長)

■東京桑野会会員名簿改訂について

前12号に予告しました「名簿改訂」については、事務局の多忙や若い期の名簿収拾が満足でないため、名簿の整理が進まず、今回は見送ることになりました。お詫び申し上げます。平成4年度にはなんとかと思っています。一応、修正分は今回会報発送に反映されていると思いますが、住所氏名にミスがありましたら、事務局までご一報下さい。

また、特に90期以降で同期の会員の住所氏名を新たに分かりましたらご一報下さい。

**事務局**

**〒160　新宿区新宿1-3-8**

**TKB　新宿御苑804**

**斉藤法律事務所内　東京桑野会事務局**

**TEL 3356-6677　(FAX 3356-6678)**

■ 1982(昭和57)年4月創刊以来十二支ひと回り目の13号をお届け致します。70〜100期代からのご寄稿が少なくて残念ですが、反面激動の青年時代を過ごされた方々から多くのご寄稿を戴きました。

55期は日中戦争が始まった翌年の昭和13年に安積へ入学、太平洋戦争だけなわの時にその後の道へ進まれた期。

64期は昭和20年、戦中最後の安積中学校入学生、65期は昭和21年戦後最初で最後の旧制中学生。この間学制により安積高校発足、6年間の安積時代。

動員の体験や、疎開による新しい仲間との交遊と別れ等々の時代。

66期は国民学校制度第一期生（偶然戦後の新制中学の第一期)、安積へは昭和25年純粋な新制高校生として入学。この年度から新学区制により近接の町村からの生徒激減の期。

現在の新テストの先輩（？）の進学適性検査実施の世代。

63期の並木謙氏、64期の佐藤司氏等が中心になって「安積高校新聞」が発刊されたり、65期の倉澤俊郎氏生徒会長、伊藤四郎氏応援団長時代の野球、蹴球等の全盛時代でもありました。

(67期　水口　禎)

■津野善三次さんの原稿を読ませていただきました。湾岸のニュースを、始めてイラクの一人ひとりのものとして考えられたような気がします。編集会議をただの酒席と心得違いしている一そんな叱責に身を縮めている、戦争を知らない私でも。

(81期　丹治則男)

■例年の年度末、多忙の最中何とか13号ができました。原稿が予想より多く16ページから24ページに増大しましたお陰で広告も増加し皆様にご迷惑をかけました。村上氏、坂本氏、山田氏、小野崎氏ご苦労様でした。椎根氏からの原稿は滑り込みセーフで一安心でした。

(78期　櫻井　淳)


あなたの生活まるごと運びます

●お問合せ・お申込は

TEL(0423)65-8100

◎一般引越

■読売ファミリーサークル引越 特典提携引越

■大学生協指定引越

府中運送株式会社 引越事業部 電信事業部

府中市白糸台1-23-10〈新甲州街道白糸台1丁目交叉点角〉

遠藤征志郎（72期）